



LSM-VIA

Version 1.7 | July 2023

Corporate
+32 4 361 7000

North & Latin America
+1 973 575 7811

Asia & Pacific
+852 2914 2501

Other regional offices
evs.com/contact/offices



→ evs.com

免責事項

本マニュアルは、オリジナルマニュアルLSM-VIA_installconfig_1.7.pdfの理解の補助用に作成されています。

本マニュアルの内容は、予告なく変更することがあります。

本マニュアルは、正確/最新/信頼できるように注意を払い作成しておりますが、株式会社フォトロンは本マニュアルの内容/品質については如何なる保証も行っておらず、間違い/エラーおよびそれらが原因となり発生した損失や損害については一切責任を負いません。

著作権

本マニュアルは、LSM-VIA_installconfig_1.7.pdfの日本語翻訳版です。

本マニュアルの著作権は、株式会社フォトロンに帰属します。

商標

すべての製品およびブランド名は、EVS、または、各所有者の商標または登録商標です。

改良要求

本マニュアルの内容に間違いがあれば、株式会社フォトロンまでご連絡下さい。

より良いマニュアル作成のために、ご協力お願いします。

目次

目次	005
新着情報	007
1. 製品概要	009
2. 前提条件	013
2.1. 概要	013
2.2. ポート80転送の無効化または有効化	016
2.3. LSM-VIAワークステーション上でモニター接続を設定する方法	018
2.4. LSM-VIA MultiReview環境のセットアップ	019
2.5. XClient-VIAでのActive Directoryの構成	021
2.6. XClient-VIA上のChromeバージョンの更新	024
3. LSM-VIAのアップグレード	027
4. 複数のワークステーションへのLSM-VIAの導入	033
5. ライセンスの管理	035
6. LSM-VIAの設定	037
6.1. 序文	037
6.2. Infrastructure設定	040
6.3. System設定	045
7. LSM-VIAを開始する	059
8. LSM-VIA リモートパネルのリカバリプロセス	063
9. LSM-VIA リモートパネルオペレーティングシステムのアップグレード (工場出荷時インストール)	065
10. XClient-VIAの展開	067

アイコン



新着情報

このマニュアルでは、テキストの横にアイコン **NEW !** が追加され、新機能または更新された機能に関する情報が強調表示されています。

バージョン1.7の新機能および更新された機能にリンクされている変更を以下に示します。

サポートされているサーバー

LSM-VIA は、XT-GO サーバーでも動作します。

LSM-VIA MultiReview

LSM-VIA MultiReview モードが実装されました。



マニュアルは 7 月に更新され、EVS によって検証されたコンバータ モジュールに関する情報が追加されました。

LSM-VIA で、MultiReview モードを有効にするための新しいオプションが利用可能です。

MultiReview モードを使用するには、有効なライセンスが必要です。

前提条件

XClient-VIA モニターの表示解像度 : 1920 x 1080 が追加されました。

EVS サーバーは、Multicam 20.5 以降を実行する必要があります。

IGMP Snooping は、適切に設定する必要があります。

LSM-VIA が、Active Directory ユーザーでインストールされていない場合の手順が追加されました。

インフラストラクチャとシステムの設定

設定を変更した後、すぐにコンフィグツールから LSM-VIA を再起動できます。

サーバーとの接続を確認でき、関連するさまざまなパラメータが表示されます。

プレイヤーを、オペレーターに割り当てるプロセスが見直されました。

パラメータの動的な表示 - 一部のパラメータまたはフィールドは、リンクされている特定のオプションが選択されている場合にのみ表示されます。

1. 製品概要

説明

LSM-VIAは、ライブスローモーションリプレイとハイライト操作を、その使いやすさ、柔軟性、速度と制御のおかげで合理化する、IPベースのソリューションです。

NEW !

XT-VIA または XT-GOサーバーと連携し、EVS VIAマイクロサービス エコシステムに依存し、新しいワークフローを開き、ライブプロダクションネットワーク上のすべてのコンテンツへのより高速で直接的なアクセスを提供します。

LSM-VIA リモートパネルは、合理化された人間工学を提供します。
コンソールのレイアウトは、LSMオペレーターになじみ深いままです。

コンソールと統合されたタッチスクリーンは、ベーシックとアドバンス機能への直接アクセスを提供します。

コンソールキーディスプレイとタッチスクリーンの両方が、作業しているモードや行っている動作に応じて自動的に調整され、必要なときに必要なものを提供します。

LSM-VIA Viewerは、主にコンテンツ管理に使用されます。
これは、ネットワーク全体のクリップのリストとプレイリストのリストへのアクセスだけでなく、アクティブなプレイリストの視覚的な表現へのアクセスを提供します。

従来のLSMリモコンと比較して、LSM-VIAソリューションは、とりわけ以下のような機能を提供します：

- コンテンツへのより高速アクセス： LSM ID を入力することによる直接アクセス； XNetネットワーク全体のすべてのレコードトレインへのアクセス
- より高速なメタデータのタグ付け
- コンテンツを整理するための新しい方法または改善された方法：
 - Shotboxボックスツールを使用すると、ユーザーは、一連の再生オプションを使用して、メディア項目を、ボタンにマップできます。
 - Trainsスクリーンでは、XNetネットワーク全体の選択したレコードトレインにフィルターを定義できます。
- 割り当て可能なショートカットボタン： 事前定義された機能/メディア/Dyviマクロを6つのボタンにマップしてすばやくアクセスしたり、動作トリガが可能です。

オペレータは、EVS サーバーのマルチビューアを利用して、要求された IN および/または OUT チャンネルを表示します。

NEW !

LSM-VIA MultiReview は、LSM-VIA ユーザーがネットワーク全体からすべての XT-VIA サーバーおよび XS-VIA サーバー レコーダー チャンネルで操作できるようにする高度なモードです。

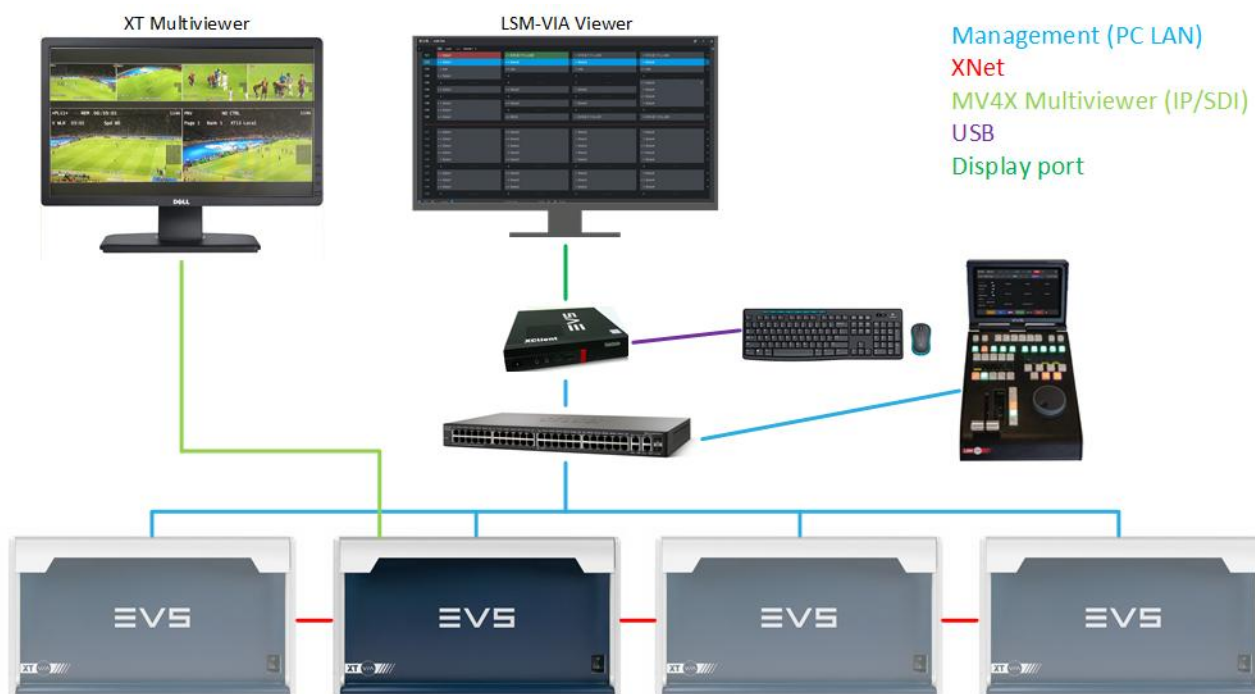
セットアップ

標準のLSM-VIA セットアップでは、オペレーターは、LSM-VIA リモートパネルと専用のLSM-VIAワークステーション上のLSM-VIA Viewerを使用して、LSM-VIAを操作します。

LSM-VIA Viewerと LSM-VIA リモートパネルは、どちらも、イーサネット接続を介して、XT-VIAサーバーと通信し、制御します。

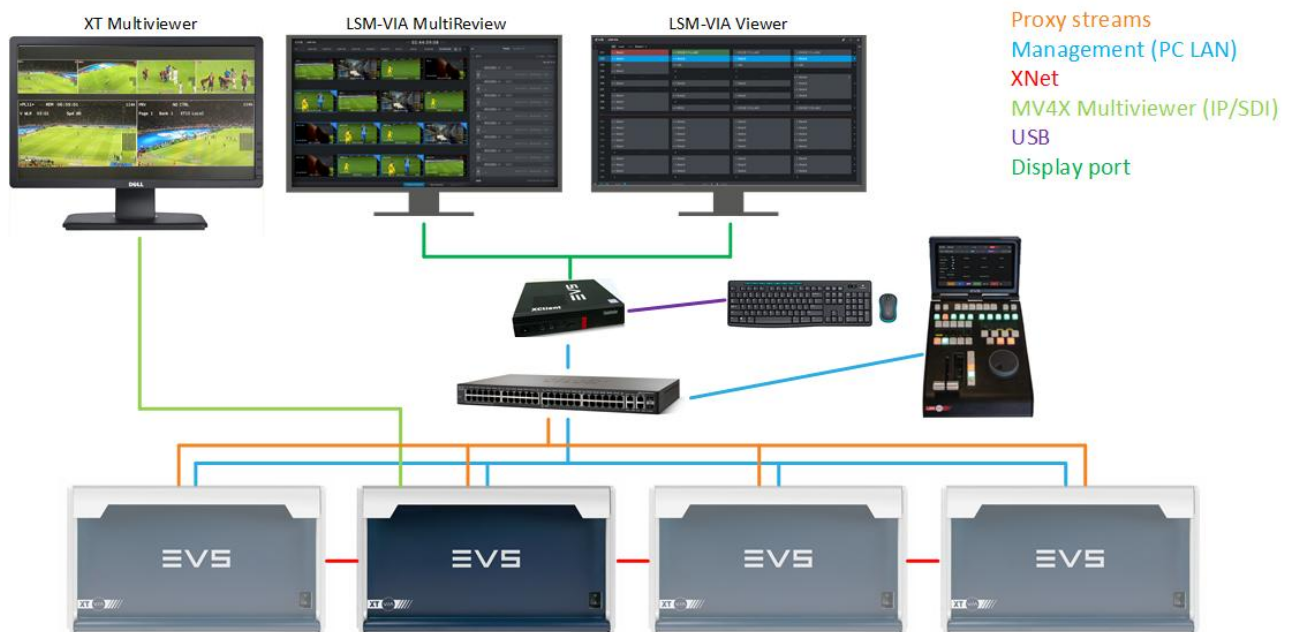
ユーザは、LSM-VIAに接続されたXT-VIAのように、同じXNetネットワーク上のEVSビデオサーバー（XT3、XT4K）にアクセスできます。

オペレーターは現在、要求されたINおよび/またはOUTチャンネルを見るために、XT-VIAサーバーのマルチビューアに依存しています。



NEW !

LSM-VIA MultiReview セットアップでは、XClient-VIA は、XTVIA サーバーおよび XS-VIA ネットワーク サーバーからマルチキャストされたプロキシ ストリームを受信し、スイッチを介して制御ネットワーク (PC LAN) にルーティングされます。



2. 前提条件

2.1. 概要

ネットワーク上の前提条件

XClient上にインストールされているオペレータサービスは、LSM-VIA リモートパネルとLSM-VIA Viewer間の通信を管理します。

また、XT-VIAサーバー上のVIAサービスとも通信します。

LSM-VIAコンフィグツールは、XClientのIPアドレスを入力することにより、ブラウザーからアクセスできます。

ネットワークに関しては、次の前提条件が適用されます。

●XClient-VIA と LSM-VIA リモートパネルは常に同じ場所にある必要があり、分散アーキテクチャに展開しないでください。

●XClient-VIA と LSM-VIA リモートパネル間のラウンドトリップ時間(RTT)は、最大20 msの必要があります。

LSM-VIAワークステーションが仮想化されている場合でも、LSM-VIAリモートと仮想マシン間のラウンドトリップ時間は、20 msを超えてはなりません。

●リモート条件(LSM-VIAとEVSビデオサーバーが異なる場所にある)で作業する場合、推奨される最大ラウンドトリップ時間(RTT)は、XClient-VIAとEVSビデオサーバーの間で、100 msです。
製品の使いやすさと全体的なユーザーエクスペリエンスは、待ちレイテンシーが長くなると低下します。

●EVSビデオサーバーが同じVLAN内にある場合、追加の設定は必要ありません。

EVSビデオサーバーが LSM-VIA リモートパネルおよび XClient-VIAとは異なるVLAN (MTPC)に展開されている場合、XClient-VIAがサーバーと通信できるようにするには、次のポートを開く必要があります：

○TCP 8088 (XT操作用)

○TCP 8080 (ブラウザーからLSM-VIAコンフィグツールにアクセスする場合)

それに応じて、ルーティングを設定する必要があります (IT)。

●LSM-VIAがVIA Xsquareと通信できるようにするには、ポートTCP 9002および9004が開いている必要があります

●LSM-VIA Viewerから検索機能を使用できるようにするには、ポートTCP 6668および6669が開いている必要があります。

●LSM-VIAをCerebrumと統合するには、TCP2071ポートを開く必要があります。

●デバイスをより安全にするには、ポート 80の転送を無効にする必要があります。

○1.2より前のバージョンのLSM-VIAでは、インストール中にポート転送がデフォルトで有効になりました。

○LSM-VIAバージョン1.2でアップグレードされたワークステーションでは、インストールによってポート転送が無効になることはありません。

○最初にインストールされたLSM-VIAバージョンが1.2であるワークステーションでは、ポート転送はデフォルトで無効になっています。

NEW !

●IGMP Snooping は、XClient-VIA および LSM-VIA リモート コンソールに接続されている PC LAN ネットワークのスイッチ上で適切に設定され、LSM-VIA ネットワーク インターフェイスが目的外の Multicast パケットで圧倒されるのを避ける必要があります。

NEW !

●Viewer および MultiReview に使用される XClient-VIA モニタの表示解像度を 1920 x 1080 に設定することを強くお勧めします。

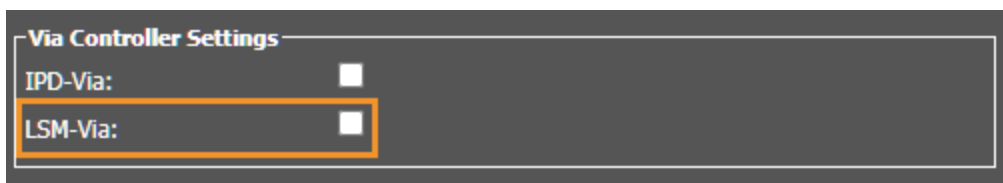
制御されるEVSサーバーの前提条件

LSM-VIAの機能環境をセットアップするためのほとんどの前提条件は、EVSサーバー側で必要です。

- 制御対象のEVSサーバーは、XT-VIAサーバーまたはXT-GOである必要があります。

NEW !

- EVSサーバーは、少なくとも Multicam 20.5以降を実行する必要があります。
- Multicam configuration (Channelsタブ)のVIA Controller Settingsエリア内で、LSM-Viaオプションが選択されている必要があります。



- Multicam configurationのPort Settingsエリア内のRS422 ポートに、2 EVS Remoteが割り当てられている必要があります。

LSM-VIAワークステーションの前提条件

LSM-VIAワークステーションには、いくつかの前提条件が適用されます。

- モニター接続の適切な構成は、LSM-VIAワークステーションで設定する必要があります。
- ActiveDirectoryでLSM-VIAを使用するには、適切な構成を設定する必要があります。
- Google Chromeを更新する必要がある場合は、いくつかのアクションを手動で実行する必要があります。

NEW !

LSM-VIA MultiReview セットアップの前提条件

2.2. ポート80転送の無効化または有効化

使用状況

●デバイスをより安全にするには、ポート80の転送を無効にする必要があります。

○1.2より前のバージョンのLSM-VIAでは、インストール中にポート転送がデフォルトで有効になりました。

○LSM-VIAバージョン1.2でアップグレードされたワークステーションでは、インストールによってポート転送が無効になることはありません。

○最初にインストールされたLSM-VIAバージョンが1.2であるワークステーションでは、ポート転送はデフォルトで無効になっています。



別のワークステーションからLSM-VIAコンフィグを編集する必要がある場合は、ポート80が開いている必要があります。

ポート転送が有効か無効かを確認する方法

LSM-VIAワークステーションから、次のコマンドを実行します：

```
sudo firewall-cmd --list-all
```

ポート80転送が有効になっている場合、次の結果が得られます：

```
evs-lan      (active)
  target: default

  icmp-block-inversion:    no

  interfaces: eno1 sources:

  services: ssh samba-client dhcpv6-client evs-docker-infra evs-avahi evs-consul

  ports: 5093/tcp 5093/udp 5938/tcp 5556-5557/tcp

  protocols:

  masquerade: no

  forward-ports:          port=80:proto=tcp:toport=8080:toaddr=

  source-ports:

  icmp-blocks:

  rich rules:
```

ポート転送を無効にする方法

LSM-VIA ワークステーションから、次のコマンドを実行します：

```
sudo firewall-cmd --zone=evs-lan --remove-forward-  
port=port=80:proto=tcp:toport=8080 --permanent  
  
sudo firewall-cmd --reload
```

ポート転送を有効にする方法

LSM-VIAワークステーションから、次のコマンドを実行します：

```
sudo firewall-cmd --zone=evs-lan --add-forward-  
port=port=80:proto=tcp:toport=8080 --permanent  
  
sudo firewall-cmd --reload
```

2.3. LSM-VIAワークステーション上でモニター接続を設定する方法

必要なCentOS構成は、モニターが、Mini-DPケーブルか？KVMスイッチか？を使用してLSM-VIAワークステーションに接続されているかどうかによって異なります。

LSM-VIAワークステーション上のフォルダ `Computer/etc/X11` 内に保存されている `xorg.conf` ファイルには、CentOSのディスプレイ設定が含まれています。

デフォルトでは、コンフィグは、Mini-DP表示用に設定されています。

KVMスイッチ使用のコンフィグを設定するには、以下の手順を実行します：

1. LSM-VIAワークステーション上で、Applications > Favorites > Terminal を選択して、Linux コマンド ラインを開きます。
2. ワークステーションに、管理者権限 (sudo) でログインします。
3. `/opt/evs/scripts` 内に保存されているスクリプト `enable-kvm.sh` を実行します。

KVM接続に必要な設定が適用されます。



Mini-DP で使用するために初期構成を復元する必要がある場合は、`/opt/evs/scripts`/フォルダに保存されているスクリプト `disable-kvm.sh` を実行します。

2.4. LSM-VIA MultiReview環境のセットアップ

NEW !

序文

LSM-VIA MultiReview は、LSM-VIA ユーザーがネットワーク全体からレコーダーを操作できるようにする高度なモードです。

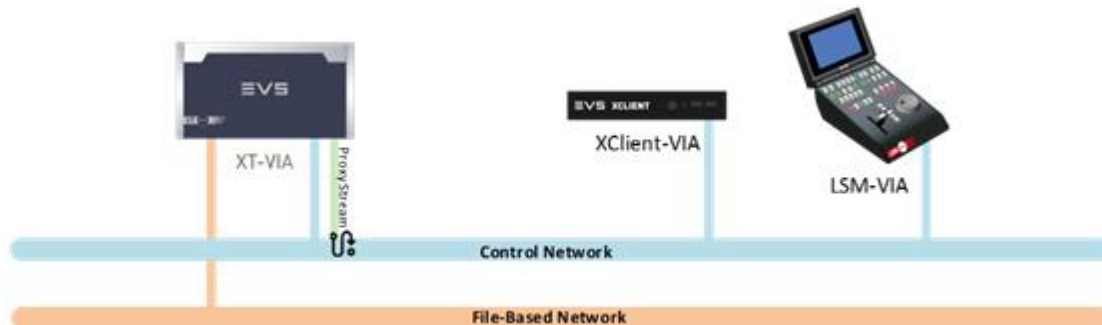
これは、ネットワークのすべての XT-VIA および XS-VIA サーバー レコーダー チャンネルからのフィードを表示および参照し、魅力的なカメラ アングルを選択してクリップを作成およびエクスポートしたり、プレイリストを構築したりするために使用されます。

ネットワーク要件

●LSM-VIA MultiReview は、XT-VIA および XS-VIA サーバーからのプロキシ ストリームを使用します。これらのストリームは、ネットワークの各 XT-VIA および XS-VIA サーバーの B1 ポートからマルチキャストされます。

各プロキシ ストリームごとに消費される帯域幅は 2 ～ 3 Mbps です。

●XClient-VIA は、制御ネットワーク (PC LAN) 経由でこれらのプロキシ ストリームを受信します。従って、XT-VIA / XS-VIA ポート B1 からのプロキシ ストリームは、スイッチを介して制御ネットワークにルーティングされる必要があります。



●ビデオは Multicast 経由でストリーミングされるため、XT-VIA / XS-VIA サーバー間の制御ネットワークにローカル ネットワークを使用するため、XClient-VIA ワークステーションと LSM-VIA リモートを強くお勧めします。

●XT-VIA / XS-VIA プロキシ ストリーミング構成は、Multicam コンフィグを介して MTPC PC LAN アドレスと同じ範囲の IP アドレスで構成する必要があります。

●ポート B1 (SFP+) を PC LAN スイッチ (RJ45) にケーブル接続するには、SFP+ から RJ45 へのコンバータ モジュールが必要になる場合があります。



EVS によって使用および検証されたコンバータ モジュールは、内部 EVS EVS reference ESSFP-A-1G-Tを備えた、Arista 1 Gigabit Ethernet SFP – Type 1000BASE-T です。

LSM-VIA の要件

- MultiReview オプションは、LSM-VIA コンフィグツールから有効にする必要があります。
- MultiReview ライセンス コード LSM-VIA-MRV が、XClient-VIA にインストールされている必要があります。

Multicam 構成要件

- LSMVIA MultiReview が XNet から全てのカメラを検出できるように、XT-VIA および XS-VIA サーバーのプールは XNet-VIA または XNet-SDTI 経由で接続する必要があります (3. Network - XNet)。
- プロキシを有効にし、ビットレート 2Mbps の H264 コーデックに設定する必要があります (1. Server - Proxy)。
- プロキシ ストリーミングを有効にし、MTPC PC LAN アドレスと同じ範囲の IP アドレスで設定する必要があります (3. Network - Advanced mode - Proxy Streaming)。

The screenshot displays the '3. Network' configuration tab of the LSM-VIA tool. It includes sections for XNet settings, Gigabit connection, Gigabit IP configuration, Proxy Streaming Configuration, and Gigabit prioritization. The 'Proxy Streaming Configuration' section is highlighted with an orange border.

Proxy Streaming Configuration

Enable Proxy Streaming:	Disabled
IP Address:	192 · 168 · 11 · 10
Subnet Mask:	255 · 255 · 255 · 0

Gigabit prioritization

Configuration mode:	Disabled		
Connections	Reserved	Remain./Max.	Bandwidth
Unreserved	6	19 / 25	100 %
Total	6		

2.5. XClient-VIAでのActive Directoryの構成

前提条件

- 日付と時刻は、XClient-VIAとActive Directoryで同じである必要があります。
- DNSに、XClient-VIAIPアドレスのエントリが必要です。

XClient-VIAでActive Directoryを構成する方法

1.DNSにアクセスするようにネットワークインターフェイスを構成します。

- a.ファイル/etc/ sysconfig / network-scripts/ifcfg-YOUR_NETWORK_INTERFACE_NAMEを開き、次の行を追加します：

```
DNS1=IP_ADDRESS_OF_YOUR_DNS  
  
DOMAIN=YOUR_DOMAIN_ADDRESS_NAME
```

- b.ファイル/etc/ hostsを開き、追加します：

```
IP_ADDRESS_OF_YOUR_DNS YOUR_NAME YOUR_DOMAIN_ADDRESS_NAME (e.g.:  
192.168.0.151 adserver)
```

- c.ネットワークサービスを再起動して、変更を考慮します：

```
systemctl restart network
```

- d.DNSにpingを実行するか、次のコマンドを入力して、構成が正しいかどうかを確認します：

```
nslookup YOUR_DNS_NAME
```

2.Active Directoryに参加します

- a.これで、Active Directoryに参加できます：

```
realm join --user=USER_NAME DOMAIN_NAME
```

- b.次のように入力して、Active Directoryに正しく参加できるかどうかを確認します：

```
realm list
```

c. 次のコマンドを使用して、ユーザーの情報を確認することもできます：

```
id USER_NAME@DOMAIN_NAME
```

3. Active Directory ユーザーに特権を付与します。

a. `evs-lsm-via-services` グループにユーザーを追加します：

```
sudo usermod -aG evs-lsm-via-services USER_NAME@DOMAIN_NAME
```

例 : `sudo usermod -aG evs-lsm-via-services delivery-user@DELIVERY.EVS`

b. `sudo` の場合、ユーザーを "wheel" グループに追加します：

```
sudo usermod -aG wheel USER_NAME@DOMAIN_NAME
```

例 : `sudo usermod -aG wheel delivery-user@DELIVERY.EVS`

NEW !

c. その AD ユーザーで LSM-VIA をインストールしなかった場合は、Docker 機能 (VIA Search など) をアクティブにできるように、このユーザーを Docker グループに追加する必要があります：

```
sudo usermod -aG docker USER_NAME@DOMAIN_NAME
```

例 : `sudo usermod -aG docker delivery-user@DELIVERY.EVS`



ユーザーの新しいメンバーシップをグループに適用するには、ログアウトするか、XClient-VIA を再起動する必要がある場合があります。

メンバーシップが適切に適用されると、コマンド `groups USER_NAME@DOMAIN_NAME` はユーザーの新しいグループを表示する必要があります。

4. EVS ユーザーを削除します

a. 新しいユーザーに接続します。

b. 次のコマンドを実行します。

```
sudo userdel evs  
  
sudo userdel evsadmin
```

オプション

ログイン時にドメイン名を指定しないでください

ドメイン名に完全なユーザー名を使用しないようにsssdを設定できます。

- 1./etc/sss/sssd.confを開きます。
- 2.次の行を変更します。

```
use_fully_qualified_names = True  
  
fallback_homedir = /home/%u@%d
```

と

```
use_fully_qualified_names = False  
  
fallback_homedir = /home/%u
```

- 3.sssdサービスを再起動します。

```
systemctl restart sssd
```

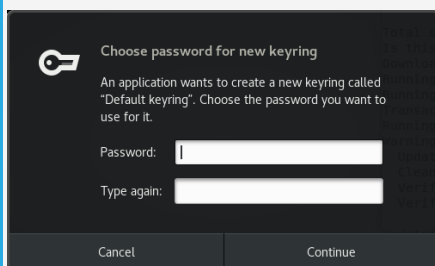
LSM-VIAショートカットをデスクトップにコピーします

LSM-VIAショートカットをデスクトップで使えるようにする場合は、次のコマンドを実行します：

- `cp -p /usr/share/applications/evs-lsm-via-viewer.desktop /home/user-name/Desktop/`
- `cp -p /usr/share/applications/evs-gemalto-manager.desktop /home/user-name/Desktop/`
- `cp -p /usr/share/applications/evs-lsm-via-configuration-gio.desktop /home/user-name/Desktop/`

2.6. XClient-VIA上のChromeバージョンの更新

Chromeの最新バージョンでは、初めて起動したときに、パスワードを保存するためのキーリングを作成し、キーリングの開口部を保護するためのパスワードを選択することを提案しています。



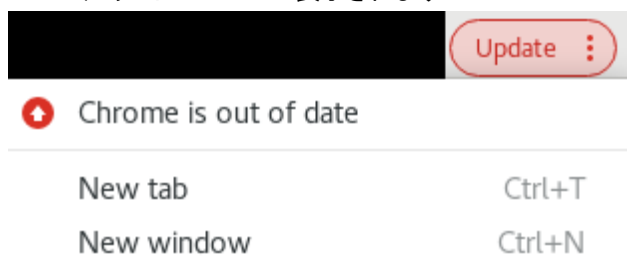
- キーリングを作成したくない場合、
 - a. **Password**と**Type again** フィールドを空で保持して
 - b. **Continue** をクリックします。
- キーリングを作成する場合には、必要な時にパスワードを思い出さなければならない事に注意して下さい。
 - a. キーリング用にパスワードを入力して、確定します。
 - b. **Continue** をクリックします。

Chromeを更新するには、

1. XClient-VIA上で、インターネット接続が正しく設定されている事を確認します。

2. Google Chromeから、ウィンドウの右上端の**Update**ボタンをクリックします。

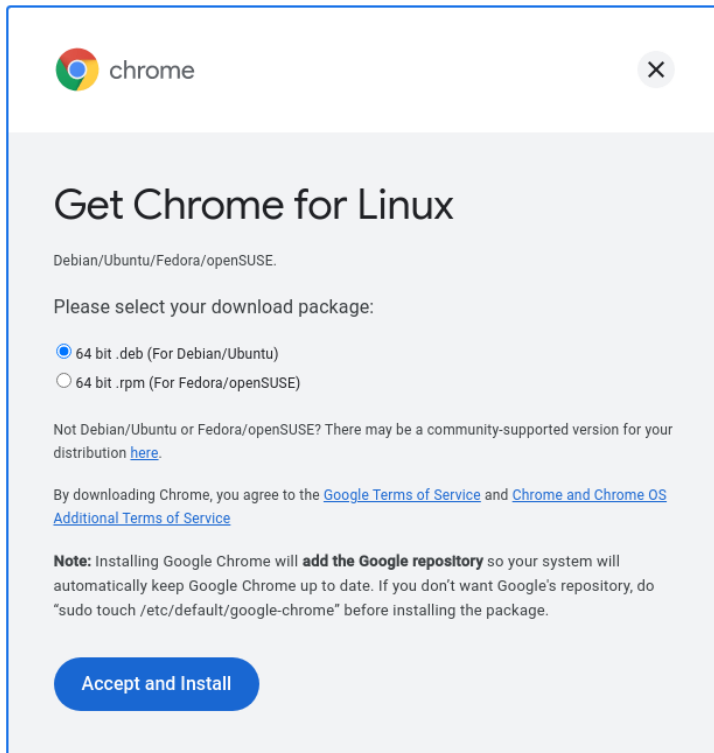
コンテキストメニューが表示されます：



3. **Chrome is out of date**をクリックします。

4. **CReinstall Chrome**をクリックします。

5. スクロールダウンして、**Download Chrome now**をクリックします。
以下のメッセージが表示されます:



6. **64 bit .rpm** を選択して、**Accept and Install**をクリックします。.
7. rpm ファイル `google-chrome-stable_current_x86_64.rpm`がダウンロードされ、デフォルトで以下に保存されます:
`/home/evs/Downloads/` by default.
8. Google Chromeを閉じます。
9. ターミナルを開きます: Applications > System Tools > Terminal
10. 以下のコマンドを実行します:
`sudo yum install /home/evs/Downloads/google-chrome-stable_current_x86_64.rpm`
11. 以下のメッセージに、**y** を入力します:

```
Transaction Summary
=====
Upgrade 1 Package

Total size: 277 M
Is this ok [y/d/N]: [ ]
```

パッケージがインストールされました。

3. LSM-VIAのアップグレード

アップグレード プロセス

LSM-VIAアップグレードは、以下の 2つのステップで実行されます：

1.ワークステーション上の LSM-VIAのアップグレード

この最初のステップでは、LSM-VIAアプリケーションとVIA Licensing Managerをインストールします。

2.LSM-VIAワークステーションに接続されているLSM-VIA リモートパネルのアップグレード

この2番目のステップは、LSM-VIA リモートパネルをオンにして、アップグレードされたLSM-VIAアプリケーションに関連付けると自動的に実行されます。

最初にLSM-VIA リモートパネルでオペレーティングシステムのバージョンをチェックし、次にLSM-VIA リモートパネルでLSM-VIAのバージョンをチェックします。

LSM-VIAバージョン番号は、コンフィグ画面の上に表示されます。

考慮事項

- アップグレードする前に、以前のバージョンを削除する必要はありません。
- LSM-VIA リモートパネルでOSのアップグレードが必要な場合(これはめったに発生しません)、これは、手順2でLSM-VIAバージョンをアップグレードする前に自動的に実行されます。
- LSM-VIAをアップグレードした後、LSM-VIAコンフィグツールで設定されたパラメーターは保持されます。

ステップ1 - ワークステーション上のLSM-VIAアプリケーションのインストール/アップグレード

1.XClient-VIAにインストーラーアーカイブをコピーします：

LSM_VIA_Installer<LSM-VIA version number>.tar.gz

ここで、<LSM-VIA version number>は、パッケージに含まれているLSM-VIAの完全なバージョン番号です。

これは、次のいずれかの方法で実行できます：

- USBキー（FAT32でフォーマット）
- TeamViewer
- FTP転送(例：FileZilla)



RPM ファイルのフルパス (RPM ファイル名とフォルダー名) にスペース文字を含めることはできません。

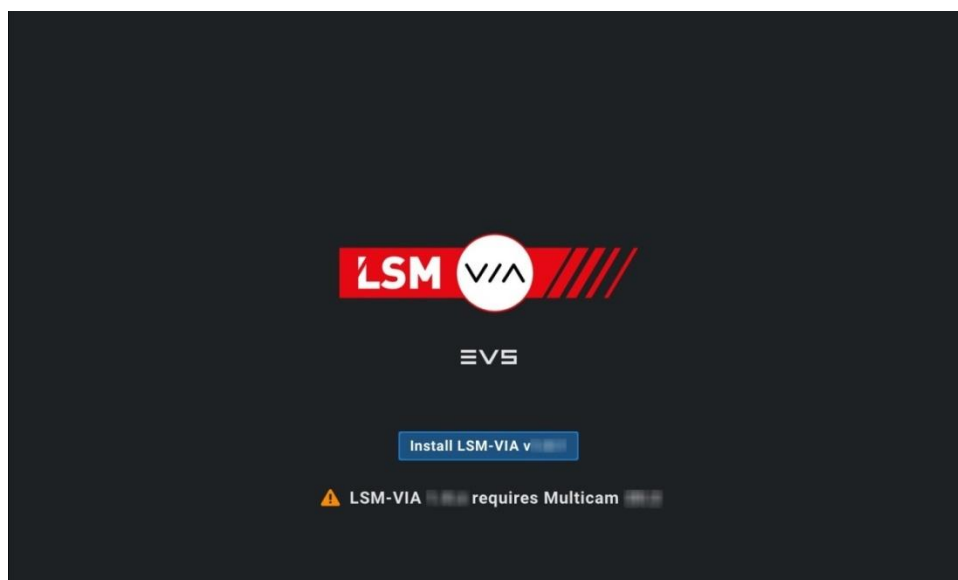
2. ファイルを解凍します。

3. 抽出したファイルをダブルクリックします：

LSM_VIA_Installer<LSM-VIA version number>-x86_64.AppImage

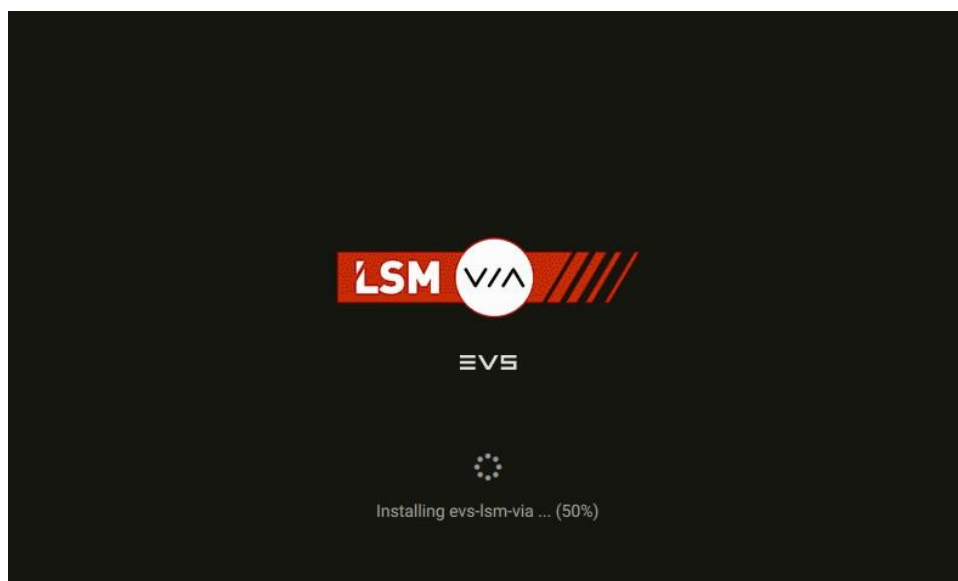
LSM-VIA インストーラウィンドウが開きます。

警告メッセージは、必要な Multicam バージョンを示しています。

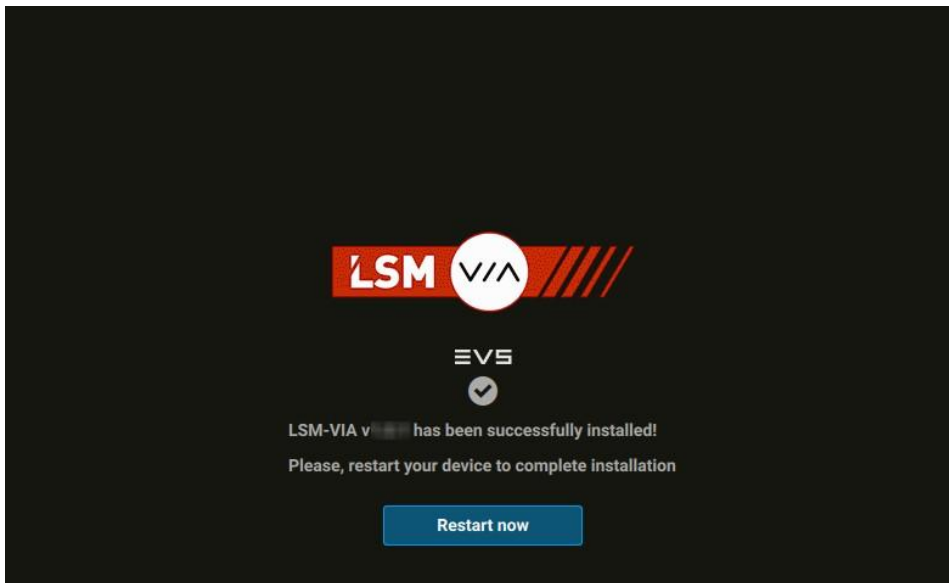


4. Install LSM-VIA をクリックします。

インストールプロセスが開始されます



5.インストールが完了し、次のメッセージが表示されるまで待ちます：



6.Restart nowをクリックします。

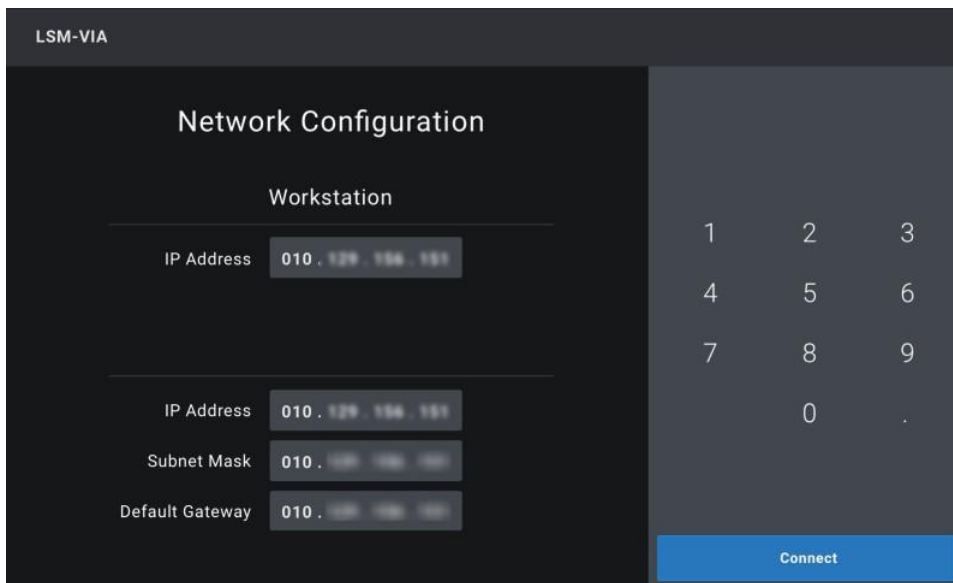
LSM-VIAアプリケーションをインストールすると、デスクトップに3つのショートカットアイコンが追加されます：

- LSM-VIAコンフィグツールにアクセスするためのLSM-VIA Configurationショートカット。
- LSM-VIAアプリケーションを開くためのLSM-VIAショートカット。
- 必要なライセンスキーを管理するためのVIA Licensing Managerショートカット。

ステップ2 – LSM-VIA リモートパネルのアップグレード

ワークステーションでLSM-VIAアプリケーションをアップグレードしたら、次の手順に従ってLSM-VIA リモートパネルをアップグレードします。

- 1.LSM-VIA Configurationショートカットをダブルクリックして、LSM-VIAコンフィグツールを開きます。
- 2.Infrastructureタブで、使用するEVSサーバーのIPアドレスを設定します。
- 3.LSM-VIAショートカットをダブルクリックして、ワークステーションでLSM-VIAアプリケーションを起動します。
有効なライセンスがインストールされている必要があります。
- 4.LSM-VIA リモートパネルの電源を入れます。
Network Configuration画面がタッチスクリーンに表示されます。
- 5.LSM-VIA リモートパネルのタッチスクリーンの、IP Addressフィールドに、LSM-VIAワークステーションのIPアドレスを入力します。
オクテットに3桁を入力すると、フォーカスは次のオクテットに直接移動します。
それ以外の場合は、編集するオクテットをタップできます。

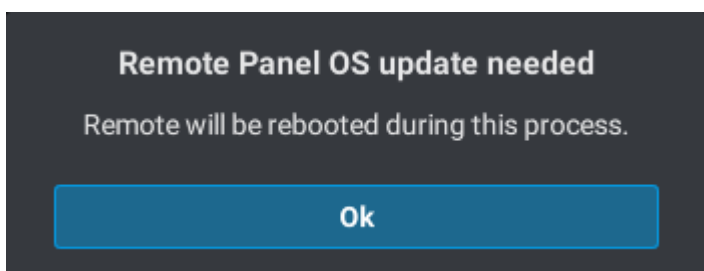


6.同様に、LSM-VIA リモートパネルのIPアドレス、サブネットマスク、およびデフォルトゲートウェイを入力します。

7.LSM-VIA リモートパネルのタッチスクリーンで**Connect**をタップします。

接続が初期化されると、オペレーティングシステムのバージョンがチェックされます。

○LSM-VIA rpmファイルのオペレーティングシステムのバージョンがLSM-VIA リモートパネルのバージョンと一致しない場合、次のメッセージが表示されます。



手順 8に進みます。

○LSM-VIA リモートパネルのオペレーティングシステムのバージョンが最新の場合、LSM-VIA リモートパネルのLSM-VIAのバージョンがチェックされます。

手順 10に進みます。

LSM-VIA リモートパネルオペレーティングシステムのアップグレード

8.表示されたメッセージでOKをタップします。

アップグレードが開始され、LSM-VIA リモートパネルに次のメッセージが表示されます：

4. 複数のワークステーションへのLSM-VIAの導入

概要

一元化された展開ツールを使用して、LSM-VIAバージョンを複数のXClient-VIAワークステーションに一度に展開できます。

LinuxとWindowsで実行できます。

これには、アップグレードするXClient-VIAのIPアドレスを設定するためのコンフィグファイルと、コンフィグファイルからワークステーションのIPアドレスを取得し、sftpを介してインストールパッケージを送信する展開スクリプトが含まれています。

展開プロセスの最後に、ファイルにさまざまなワークステーションのインストールステータスが要約されます。

前提条件

- TCP 22ポートは、sftp転送のために開いている必要があります。
- LSM-VIAワークステーション上:
 - ユーザーはevsである必要があります。
 - インストールはActive Directoryユーザーでは機能しません。
 - パスワードは、すべてのワークステーションで同じである必要があります。

手順

1.EVS Webサイトからアーカイブパッケージをダウンロードします。

evs-lsm-via-centralized-installer-<tool version number>.tar.gz

ここで、<tool version number>は、ツールの完全なバージョン番号です。

2.バージョンを展開するワークステーション(XClient-VIA、または同じPCLANネットワーク上のLinuxまたはWindows PC)にパッケージをコピーします。

これは、次のいずれかの方法で実行できます：

○USBキー(FAT32でフォーマット)

○TeamViewer

○FTP転送(例: FileZilla)

3.パッケージを解凍します。

4.コンフィグファイル(configuration.json)を開き、次に、

```
{
  "installerPath": "C:\\Users\\qtu\\Downloads\\LSM_VIA_Installer-1.3.0.33272.tar.gz",
  "forceInstall": "false",
  "ipAddresses": [
    "10.129.156.165",
    "10.129.156.241",
    "10.129.156.235"
  ]
}
```

a.LSM-VIAインストーラーへのパスを設定します。

Windowsでは、スクリーンショットに示されているように、必ず\\を使用してください。

b.バージョンがすでに存在するかどうかにかかわらず、インストールを強制する場合は、**Force** パラメーターを **True** に設定します。

c.アップグレードするXClient-VIAのIPアドレスを設定します。

d.ファイルを保存します。

5.展開スクリプトを実行します：

○Windowsでは、ファイル `evs-lsm-via-centralized-installer-<tool version number>` をダブルクリックします。

○Linuxの場合：

i.ターミナルを開き、ツールが含まれているフォルダーにあるコマンドを入力します。

ii. `./evs-lsm-via-centralized-installer-<tool version number>` と入力します。

6.ターゲットワークステーションのユーザーパスワードを入力します。

スクリプトは最初に**Force**オプションをチェックします。

●**Force** パラメータが**True**に設定されている場合、バージョンはすべてのワークステーションにデプロイされます。

●**Force** パラメータが**False**に設定されている場合、スクリプトは、更新する各ワークステーションのversion.txt ファイルのLSM-VIAバージョンをチェックします。

○version.txtファイルのバージョンがデプロイするバージョンと一致する場合、バージョンはインストールされません。

○バージョンが一致しない場合、インストールが開始されます。

スクリプトのコマンドプロンプトから、以下に関連するフィードバックを受け取ることができます：

- 進捗状況の表示、
- インストールステータス、
- エラーメッセージ(ある場合)

プロセス全体の最後に、2つのログファイルが作成されます。

●`evs-lsm-via-installation.log`は、すべてのログを一覧表示します。

●`evs-lsm-via-installation-summary.log`は、IPアドレステキストファイルで指定された各XClient-VIAのインストールステータスを要約します。

○インストールステータス

○一部のユニットでインストールが失敗した場合の詳細なエラーメッセージ。

ファイルは次のディレクトリに保存されます：

●Linuxの場合： `/var / log / EVSLogs / lsm-via / installation`

●Windowsの場合： `C:\ EVSLogs \ lsm-via \ installation`

5. ライセンスの管理

ライセンスコード

有効なライセンス キーを、XClient-VIA 上の VIA Licensing Manager からインストールする必要があります。

利用可能なライセンス コードのリストを以下に示します。

有効なライセンス キーを XClient-VIA にインストールする必要があります：

- LSM-Via-PACK: LSM-VIA 専用の必須ライセンス

NEW !

- LSM-VIA-MRV: MultiReview モードに必要なライセンス (オプション)

ライセンスキーをリクエストしてインポートする方法



1. デスクトップショートカットをクリックして、LSM-VIA Licensing Managerを開きます：

次のパネルが開き、コマンドラインとさまざまなメニューオプションが表示され、さまざまな手順を実行できます。

```

+-----+
| LSM-VIA-BP LICENSING MANAGER |
+-----+

SERVER MODE : SINGLE

Generate locking code
Show installed licenses
Show installed license ids
Install a license
Remove a license
Setup redundant configuration
Show redundant configuration members
Show redundant configuration leader
Resynchronize redundant servers
Revert to single configuration
Revert to redundant configuration
Exit

<RETURN>, <SPACE> or <TAB> validate - <ESC> cancel ===

```

2. 最初のオプションを選択して、ロックコードを生成します。
画面には、デバイス固有のロックコードが表示されます。

- 3.このデバイスの特定のライセンスファイルを受け取るために、このコードをEVSサポートに送信します。
4. EVSサポートからライセンスキーを含むファイルを受け取ったら、次のようにライセンスをインストールします：
 - a.LSM-VIA Licensing Managerから、**Install a license**オプションを選択します。
 - b.ファイルをドラッグアンドドロップするか、表示された画面にファイルパスを入力します。
- 5.ライセンスがインストールされたら、**Show installed licenses**オプションを選択してそれらを表示します。

6. LSM-VIAの設定

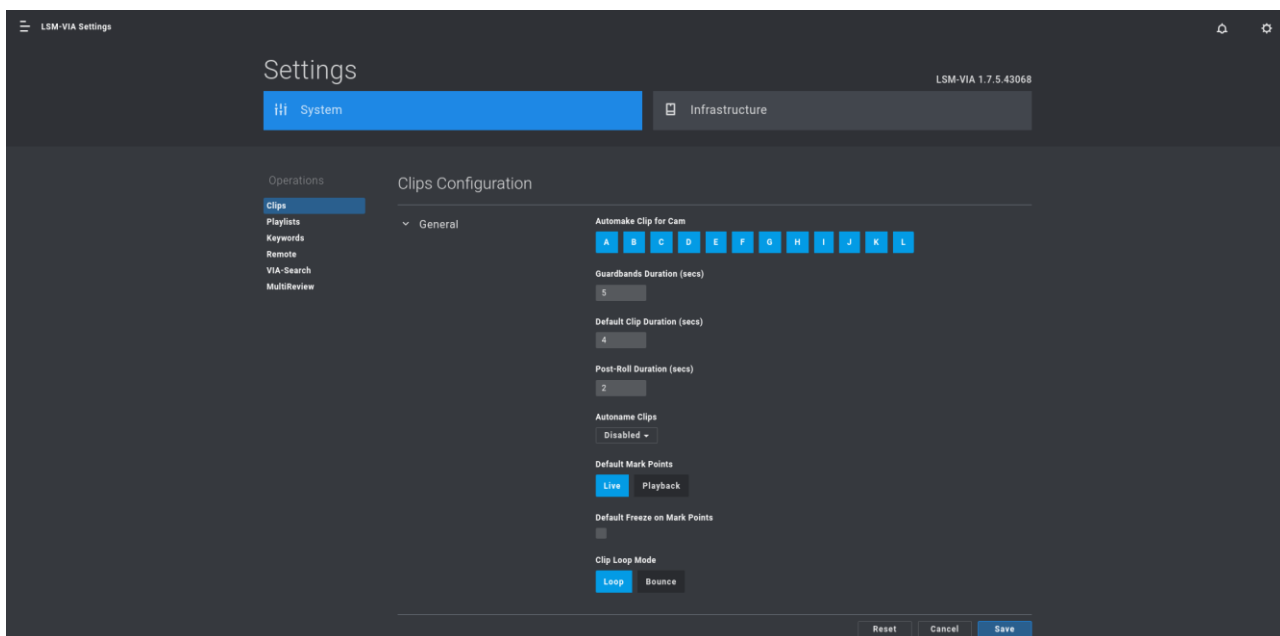
6.1. 序文

LSM-VIA設定について

LSM-VIA設定で、異なるパラメータを設定できます。

LSM-VIAアプリケーションをアップグレード(またはダウングレード)するたびに、LSM-VIAワークステーションでコンフィグパラメータを再設定する必要はありません。

既存のコンフィグは、保持されます。



前提条件

コンフィグツールは、webベースインターフェースです。

- Google Chromeが、デフォルトwebブラウザである事を確認します。

Settingsカテゴリ

Settingsは、以下のカテゴリに分類されます：

NEW !

- System: Clips、Playlists、Keywords、Remote、VIA-Search、MultiReview
- Infrastructure: EVS Server、VIA Xsquare、DYVI

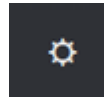
LSM-VIA設定を編集する方法

1.以下のいずれかの方法で、LSM-VIA configurationツールにアクセスします：

- LSM-VIAワークステーションから、**LSM-VIA Configuration**ショートカットをダブルクリックします。
デフォルトでは、Chromeで開きます。



- コンフィグツールはWebベースのインターフェースであるため、Webブラウザを使用してアクセスできます。
任意のワークステーションから、WebブラウザにLSM-VIAワークステーションのURLを入力します：
`http:\IPアドレス:8080`



○LSM-VIAワークステーションのLSM-VIA Viewerウィンドウで、ボタンをクリックして**Settings**を選択します。



コンフィグツールが、Chrome で開かれている事を確認します。

2.関連するパラメーターの値を編集します。

3.**Save**をクリックします。



Reset、Cancel、Save

- Reset、Cancel、Save**ボタンは、すべてのタブに一度に適用されます。
- リセット後、変更を保存する必要がありますが、リセット操作をキャンセルすることもできます。

NEW !



LSM-VIA の実行中に再起動が必要な設定を変更した場合は、ポップアップによりコンフィグツールからすぐに再起動するか、後で再起動するかを決定できます。

LSM-VIA restart required

To apply all changes, please restart the LSM-VIA application.

Restart later

Restart now

LSM-VIA上の固定値を持つパラメータ

一部のパラメータは、LSM-VIA configurationツールでは編集できず、LSM-VIAの現在のバージョンに対して固定値を持ちます。

したがって、これは現在のバージョンでは編集できません。

Enable PGM + PRV Mode

PGM + PRVモードは常にActiveに設定され、LSM-VIA リモートパネル上で使用可能です。

Video Effect

プレイリスト素材間のトランジションは、常に、**Mix**です。



パラメータが、制御される EVS サーバーの Multicam Configuration モジュール内で使用可能なパラメータに対応していたら、Multicam パラメータは考慮されません。

6.2. Infrastructure設定

EVS Server設定

Station

EVS Server

VIA Xsquare

Dyvi

EVS Server Configuration

General

EVS Server IP Address (PC LAN)

0.0.0.0

Check Connection

Last check

Latency between LSM-VIA Workstation & EVS Server

EVS Server

MUL Version

VIA Services

VIA Services response time

Net Number - Net Name

Serial Number

Operator Players

PGM 1 PGM 2 PGM 3 PGM 4 PGM 5 PGM 6

⚠ Running more than 4 Operators on the same local EVS Server is not supported.

Operator Recorders

A B C D E F G H I J K L

XT-VIA IP Address (PC LAN)

この設定では、LSM-VIAによって制御されるEVSビデオサーバーのIPアドレスを指定します。

NEW !**Check Connection**





このボタンはEVSサーバーとの接続を確認するために使用されます。

その下のフィールドは次のように表示されます：



EVS Server IP Address (PC LAN)

Last check	02 May 2023 - 03:29 PM
Latency between LSM-VIA Workstation & EVS Server	2 ms RTT
EVS Server	XT-VIA
MUL Version	✓ 20.05.10.82021, compatible with LSM-VIA 1.7.9.43495
VIA Services	✓ Available
VIA Services response time	45 ms RTT
Net Number - Net Name	7 - XTVIA1
Serial Number	375410

チェック結果は次のことを示します：

- Multicam バージョンは、LSM-VIA バージョンと互換性があるか  ないか .
- LSM-VIA と VIA サービス間の接続は、確立されたか 、されないか .

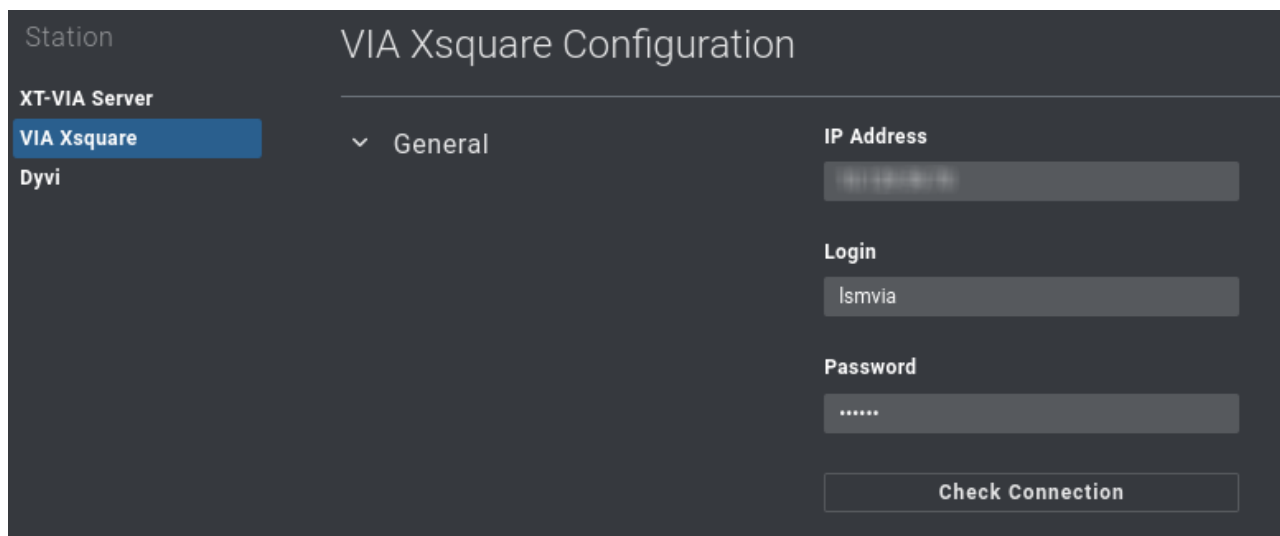
Operator Players

NEW ! 説明	<p>接続されたオペレーターが操作できるローカル サーバー プレーヤー チャンネルを選択できます。</p> <p> 同じローカル EVS サーバー上で 4 つを超えるオペレーターを実行することはサポートされていません。</p>
可能な値	<p>PGM1、PGM2、PGM3、PGM4、PGM5、PGM6 オペレータごとに最大 3 つの PGM を選択でき、それらは連続している必要があります。 プレーヤーのボタンをクリックして、対応するプレーヤーのチャンネルを選択（強調表示）します。</p> <p> プレイヤーを選ぶときは注意してください。 実際、同じプレイヤーが複数のオペレーターによって選択されるべきではありません。 ただし、システムは異なるオペレーターが同じプレイヤーを選択することを妨げません。</p> <p>リモート ボタンは自動的に適切にマッピングされます。</p>
デフォルト値	PGM1 + PGM2 + PGM3

Operator Recorders

説明	選択したオペレータが操作できるレコーダーチャンネルを選択できます。
可能な値	<p>レコーダーラベル A から L。 レコーダーボタンをクリックして、対応するレコーダーチャンネルを選択/ハイライトします。</p> <div data-bbox="343 1227 1040 1326" data-label="Image"> </div> <p>同じレコーダーを複数のオペレーターが選択できます。 リモートボタンは、自動的に適切にマッピングされます。</p>
デフォルト値	No recorder selected

VIA Xsquare設定



IP Address

この設定は、エクスポートの目的で使用されるXsquareをホストしているマシンのIPアドレスを指定します。

Login

このフィールドは、VIA Xsquareユーザーのログインを入力するために使用されます。

Password

このフィールドは、VIA Xsquareユーザーのパスワードを入力するために使用されます。

Check Connection

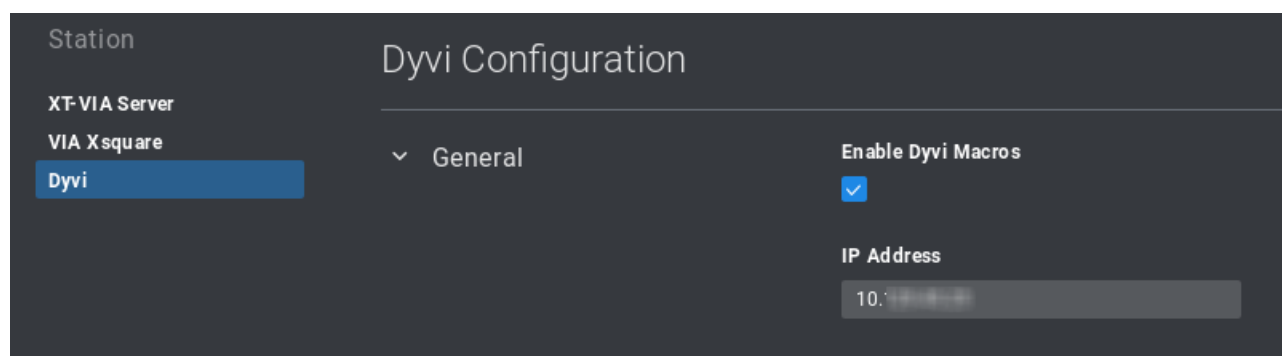
このボタンは、VIA Xsquareとの接続を確認するために使用されます。

結果は、次のいずれかの方法で表示されます：



または

DYVI設定



Enable DYVI Macros

説明	<p>LSM-VIA リモートパネルから、DYVIマクロを使用できるようにします。</p> <p>DYVIマクロは、適切に設定されている場合、LSM-VIA リモートパネルショートカットボタン/キーにマップされる機能として使用できます。</p> <p>したがって、オペレータは、LSM-VIA リモートパネルコンソールまたはタッチスクリーンから、DYVIマクロをトリガすることができます。</p> <p>LSM-VIA から、最大 6個のDYVI マクロを使用できます。</p>
可能な値	<p>●No (クリア): DYVIマクロは、LSM-VIAから利用できません。</p> <p>●Yes (選択): DYVI マクロが、LSM-VIAリモコンショートカットボタン/キーにマッピングするために使用できます。</p>
デフォルト値	No (クリア)

IP Address

有効	この設定は、 Enable DYVI Macros パラメータが選択されている場合にのみ表示されます。
説明	LSM-VIAに接続するDYVIスイッチャーのIPアドレスを指定します。

6.3. System設定

Clips設定

Operations

Clips
Playlists
Keywords
Remote
VIA-Search
MultiReview

Clips Configuration

General

Automake Clip for Cam

A B C D E F G H I J K L

Guardbands Duration (secs)

5

Default Clip Duration (secs)

4

Post-Roll Duration (secs)

2

Autoname Clips

Disabled

Default Mark Points


Live Playback

Default Freeze on Mark Points

Clip Loop Mode

Loop Bounce

Automake Clip for Cam

コンテキスト	<p>クリップ作成時、IN/OUTポイントがマークされたカメラに対応するクリップは、常に保存されます。他のカメラでも、同じ動作を自動的に行うことができます。</p> <div>  <p>現在、Automake設定では、EVSサーバーで設定されているINチャンネルの数は考慮されません。 従って、未使用カメラに対して設定されたAutomakeパラメータは無視されます。</p> </div>
説明	カメラ上でINまたは OUTポイントがマークされていない場合でも、有効なカメラ上でクリップ作成を指定します。
可能な値	A ~ L までのカメララベル。 カメラボタンをクリックして、対応するカメラを選択(ハイライト)します。
デフォルト値	全てのカメラを選択(ハイライト表示)。

Guardbands Duration (secs)

説明	クリップガードバンドのデュレーションを、秒単位で指定します。 これは、プリロールとポストロール用のINポイントの前とOUTポイントの後に追加される追加の素材を表します。
可能な値	0 s ~ 60 s
デフォルト値	5 s

Default Clip Duration (secs)

説明	参照ポイントが1つだけ(INまたはOUTポイント)で作成されるクリップのデュレーションを指定します。
可能な値	0 s(非アクティブ) ~ 14400 s(240 min)
デフォルト値	4 s

Post Roll Duration (secs)

説明	ポストロールのデュレーションを指定します。 LiveスクリーンまたはClipスクリーンからPost Roll機能が有効になると、再生は、Post Roll Durationパラメータで定義されたデュレーション継続されます。 ●ガードバンド内に十分な素材がある場合、クリップのOUTポイントの後 ●ガードバンド内に十分な素材がある場合、最後のプレイリスト素材のOUTポイントの後
可能な値	00 s00 fr ~ 600 s00 fr
デフォルト値	02 s00 fr

Autoname Clips

説明	この機能が有効な場合、選択したフィールドの値は、クリップ作成時にクリップの名前に自動的に使用されます。
可能な値	<ul style="list-style-type: none"> ●Disabled: クリップ作成時に、クリップに名前が割り当てられません。 ●TC IN: クリップ作成時に、クリップのINポイントのタイムコードがクリップ名として使用されます。 ●CAM Name: クリップ作成時に、レコードチャンネルの名前がクリップ名として使用されます。 ●ID Louth/UmlD: クリップ作成時に、クリップのID Louth(UmlD)、つまりXNetネットワーク上のクリップの一意の識別子が、クリップ名として使用されます。 ●VarID 32: クリップ作成時に、クリップのVarIDが、クリップ名として使用されます。 実際には、クリップ名は、VarIDの最初の 8文字に制限されます。
デフォルト値	Disabled

Default Mark Points

説明	マークポイントの設定方法を設定します。
可能な値	<p>●Live: マークポイントは、最小制御PGM上にロードされたトレインのLIVE入力タイムコードで、全てのレコードトレインに設定されます。</p> <p>●Playback: マークポイントは、最小制御PGM上にロードされたクリップまたはトレインの現在のタイムコードに設定されます。</p>
デフォルト値	Live



このデフォルト設定は、LSM-VIAの起動時にのみ考慮されます。
リモコンのLive画面やClip画面から利用できる **Mark Live / Playback**設定とは独立しており、**Mark Live / Playback**設定を変更しても、デフォルト設定には影響しません。

Default Freeze on Mark Points

説明	再生中のクリップ/レコードトレイン上で、マークポイントに到達した時に、Multicamが、フリーズするか、しないかを設定します。
可能な値	<p>●No (クリア): クリップ/レコードトレイン再生時に、再生はマークポイント上でフリーズしません。</p> <p>●Yes (選択): マークポイントが設定されているクリップ/レコードトレイン再生時に、再生はマークポイント上でフリーズします。</p>
デフォルト値	No (クリア)



このデフォルト設定は、LSM-VIAの起動時にのみ考慮されます。
リモコンのLive画面やClip画面から利用できる **Freeze on Marks**設定とは独立しており、**Freeze on Marks**設定を変更しても、デフォルト設定には影響しません。

Clip Loop Mode

説明	LoopモードがアクティブになっているときのLoop機能の動作を設定します。
可能な値	<p>●Loop: ロードされたクリップを連続ループで再生します。</p> <p>●Bounce: ロードされたクリップをINポイントからOUTポイントに再生し、次にOUTからINに逆方向に再生します。</p>
デフォルト値	Loop

Playlists設定

Operations

Clips
Playlists
Keywords
Remote
VIA-Search
MultiReview

Playlists Configuration

General

Default Playlist Speed

UnknownCustom100

Default Effect Duration (frames)

0

Advanced Audio Editing

☒

Audio Effect Duration

0

Fade Effect Color

BlackWhite

Wipe Effect Type

Vert. R>LVert. L>R

Insert in Playlist

BeforeAfter

Insert SLSM at Native Speed

☐

Default Playlist Load Mode

AlwaysConditional


AUX Track Output

PRVPRV&7-8/15-16PGM

Default Playlist Speed

説明	プレイリスト素材がプレイリストに追加される時に持つ、デフォルトの速度値を設定します。
可能な値	<p>●Unknown: プレイリスト内の前の素材の速度が、現在の素材のリファレンスとして使用されることを意味します。</p> <p>●Custom: 0 ~ 100% ○0%: 各要素の終わりで、プレイリストを強制的に一時停止します。 ○1% ~ 100%: 指定した速度を、プレイリスト素材のデフォルト速度として適用します。</p> <p>カスタム速度を設定するには、 a. Customをクリックします。 追加のフィールドが表示されます。</p>  <p>b. 0 ~ 100%の値を選択します。</p>
デフォルト値	100 %

Default Effect Duration (Frames)

説明	<p>ビデオトランジションエフェクトのデュレーションを設定します。 設定した値は、Playlist Editモードで、デフォルト値として使用されます。</p> <div>  <p>1 PGM + PRVモードで、TAKEボタンを使用する場合のビデオトランジションのデュレーションは、独自のパラメータを持っています、Effect Duration for Take設定。</p> </div>
可能な値	0 fr ~ 600 fr
デフォルト値	0 fr

Advanced Audio Editing

可用性	この設定は、ライセンスコード 112 が有効な場合にのみ使用できます。
説明	オーディオスプリット、オーディオスワップなどのアドバンスオーディオ設定にアクセスできます
可能な値	<p>●No (クリア): ビデオとオーディオのトランジションエフェクトを個別に変更できません。</p> <p>●Yes (選択): ビデオとオーディオのトランジションエフェクトを個別に変更できます。</p>
デフォルト値	No (クリア)

Audio Effect Duration

NEW !	●この設定は、ライセンスコード 112 が有効な場合にのみ使用できます。
可用性	●この設定は、Advanced Audio Editing 設定が選択されている場合にのみ表示されます。
説明	オーディオトランジションエフェクトのデュレーションを設定します。 指定された値は、Playlist Editモードでクリップがプレイリストに追加されるときにデフォルト値として使用されます。
可能な値	0 fr ~ 600 fr (NTSC: 20秒)
デフォルト値	0 fr

Fade Effect Color

説明	フェードトランジションエフェクト中に表示される色を設定します。
可能な値	Black、White
デフォルト値	Black

Wipe Effect Type

説明	ワイプトランジションエフェクトの方向を設定します： from right to left、from left to right.
可能な値	Vert. L>R、Vert. R>L
デフォルト値	Vert. L>R

Insert in Playlist

説明	プレイリストに追加されたクリップが、プレイリスト内のアクティブクリップの前/後に挿入されるかを設定します。
可能な値	Before、After
デフォルト値	Before

Insert SLSM Native Speed

説明	プレイリストに挿入されたSLSMクリップを、そのネイティブスピードで再生するように自動的に設定するか、Default Playlist Speedパラメータで設定された値に設定するか、を設定します。
可能な値	●No (クリア): SLSMクリップの再生速度は、Default Playlist Speed設定値に依存します。 ●Yes (選択): SLSMクリップの再生速度は、自動的にネイティブの速度に設定されます。
デフォルト値	No (クリア)

Default Playlist Load Mode

説明	プレイリストがロードされる方法を決定します。
可能な値	<p>● Always: プレイリストは、常に、PGM + PRVで、ロードされます。</p> <p>● Conditional: プレイリストは、PGM + PRVで、ロードされます。 例外: Multi - PGMモードで1つのPGM が制御されている場合: 制御チャンネル上に最初のプレイリスト素材のみがロードされます。 これで、1つのLSM-VIA リモートパネルを使用して、複数のプレイリストをロードし、再生することができます。</p>
デフォルト値	Always



このデフォルト設定は、LSM-VIAの起動時にのみ考慮されます。
LSM-VIA リモートパネルのLive画面やClip画面から利用できる **Always / Conditional**設定とは独立しており、**Always / Conditional**設定を変更しても、デフォルト設定には影響しません。

AUX Track Output

説明	プレイリストのAUXトラックを出力するオーディオを指定します。
可能な値	<p>以下の値が可能です。</p> <p>● PRV: AUXトラックは、PRVチャンネルに通常割り当てられたオーディオ出力を使用します。 PRVチャンネルが利用できない場合、AUXトラックはオーディオ出力に割り当てられません。</p> <p>● PRV & 7 - 8 / 15 - 16: AUXトラックは、PRVチャンネルに通常割り当てられたオーディオ出力が1つある場合に使用され、さらに7-8/15-16のオーディオ出力のうち、まだ別のチャンネルに割り当てられていないすべてのオーディオ出力が使用されます。 PRV チャンネルを使用できないAUXトラックが必要な場合は、このオプションを使用します。</p> <p>● PGM: AUXトラックは、PGMチャンネルに通常割り当てられたオーディオ出力を使用します。</p>
デフォルト値	PRV

Keywords設定

Operations Keywords Configuration

Clips
Playlists
Keywords
Remote
VIA-Search
MultiReview

General

Keyword File Mode
Local Network

Local Keyword File
/opt/evs/evs-lsm-via/share/Athletics.kwd

Operations Keywords Configuration

Clips
Playlists
Keywords
Remote
VIA-Search
MultiReview

General

Keyword File Mode
Local **Network**

IP Address of Network Keyword File Host
[Empty Field]

Keyword File Mode

説明	ローカルワークステーションがローカルに保存されたキーワードファイルで動作するか、ネットワークの別のLSM-VIAワークステーションで動作するかを指定します。
可能な値	Local, Network
デフォルト値	Local

Local Keyword File

NEW ! 有効	この設定は、Keyword File Mode パラメータの Local オプションが選択されている場合にのみ表示されます。
説明	このフィールドは、クリップキーワードの管理に使用されるローカルキーワードファイルへのパスと名前を示します。

IP Address of Network Keyword File Host

NEW ! 有効	この設定は、Keyword File Mode パラメータの Network オプションが選択されている場合にのみ表示されます。
説明	この設定は、キーワードファイルをホストしているLSM-VIAワークステーションのIPアドレスを指定します。

Remote設定

Operations

Clips
Playlists
Keywords
Remote
VIA-Search
MultiReview

Remote Configuration

General

Effect Duration for Take (frames)

10

Fast Jog

20

Default Channel Mode

Multi-PGM PGM/PRV

Recall Clip Toggle

☒

Second Lever Range

-100% -> +100% ▾

PGM Speed / VarMax

50

Display Info & Success Notifications

Disabled Enabled

Effect Duration for Take (frames)

説明	Takeエフェクトのデュレーションを設定します。 (PGM1とPGM2上、PGMとPRV上にロードされた素材を交換します。)
可能な値	0 ~ 600 frames
デフォルト値	10 frames

Fast Jog

説明	LSM-VIAリモコンでFast Jog機能を有効にしたときに、ロードされた素材がブラウズされる標準ジョグ速度よりも何倍速いかを指定します。
可能な値	1 x ~ 20 x (整数)
デフォルト値	20 x

Default Channel Mode

説明	EVSサーバーのチャンネルを制御するデフォルトモードを指定します。
可能な値	Multi - PGM、PGM + PRV
デフォルト値	Multi - PGM



このデフォルト設定は、LSM-VIAの起動時にのみ考慮されます。
LSM-VIA リモートパネルのLive画面やClip画面から利用できる **PGM + PRV** / **Multi PGM**設定とは独立しており、**PGM + PRV** / **Multi PGM**設定を変更しても、デフォルト設定には影響しません。

Recall Clip Toggle

説明	ファンクションキーを使用してクリップのカメラの選択を有効/無効にします： クリップ位置のファンクションキーを数回押すと、クリップのさまざまなカメラアングルが連続して呼び出されます。
可能な値	ON、OFF
デフォルト値	ON


Second Lever Range

可用性	レバーを通常モードで使用すると、0～100 %のスローモーション速度でクリップを再生できます セカンダリ範囲は、他の速度範囲で素材を再生するために使用できます。 リモートパネルコンソールからセカンダリスピードにアクセスするには、 SHIFT + 2nd Lever / TAKEを押します。 セカンダリレバー範囲は、プレイリスト要素の速度を編集するときにも使用できます。
説明	LSM-VIA リモートパネルでセカンダリ速度範囲を指定します。
可能な値	<ul style="list-style-type: none"> ● -100 % → +100 % ● 0 → 200 % ● -200 % → +200 % ● 0 → 300 % ● 0 → 400 % ● -400 % → +400 %
デフォルト値	-100 % → +100 %

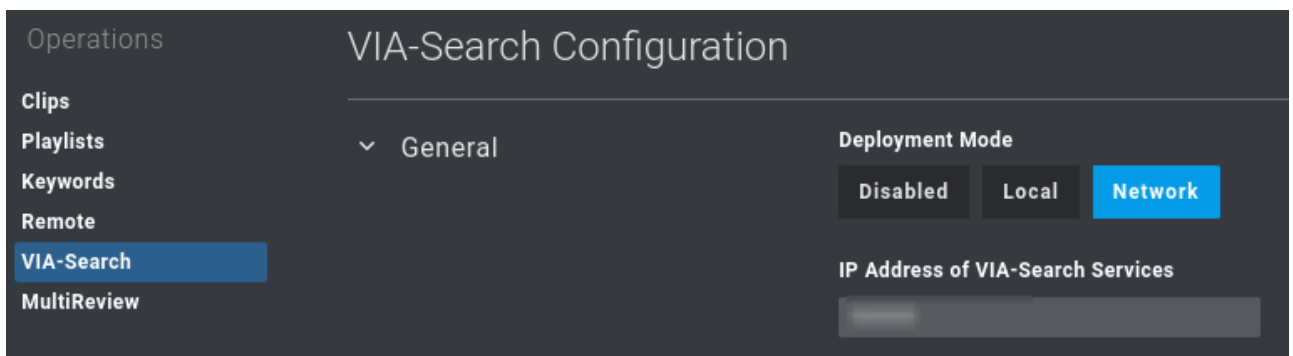
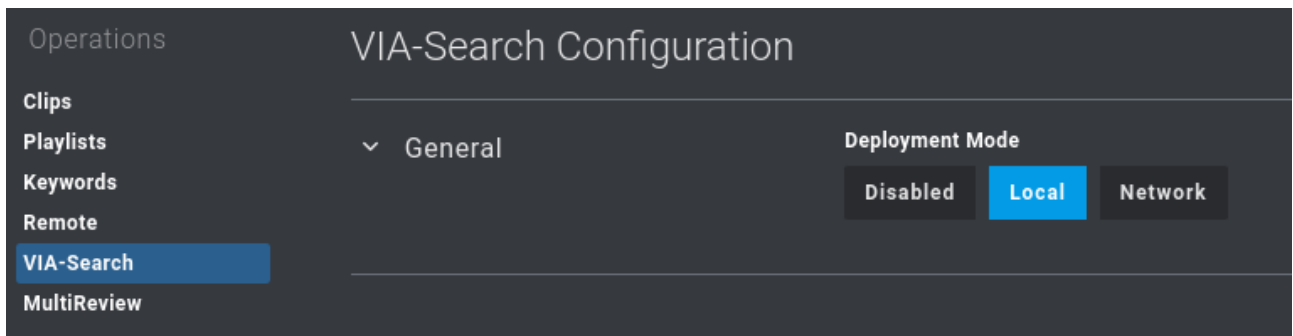
PGM Speed / VarMax

可用性	再生中に、PGM SpeedまたはVar Maxがアクティブになっている場合、レバーの範囲は次のように調整されます： ●PGM Speedモードの場合： 0以外のレバーの任意の位置の唯一の再生値は、このパラメーターで指定された値です。 または、 ●Var Maxモードの場合： レバーで定義された速度範囲は[0% - 設定値]。
説明	PGM Speedモードがアクティブになっているときにレバーに割り当てられる再生速度、またはVar Maxモードがアクティブになっているときの速度範囲を指定します。
可能な値	1 ~ 400 %の値の範囲
デフォルト値	50 %

Display Info & Success Notifications

説明	LSM-VIA ViewerおよびLSM-VIA リモートパネルタッチスクリーンの情報および成功カテゴリのポップアップとしての通知の表示を有効/無効にします。 エラーと警告の通知は、どのような場合でも表示されます。  この設定は、すべてのカテゴリからの通知を表示するNotificationペインにリストされている通知には影響しません。
可能な値	Disabled、Enabled
デフォルト値	Disabled

VIA Search設定



Deployment Mode

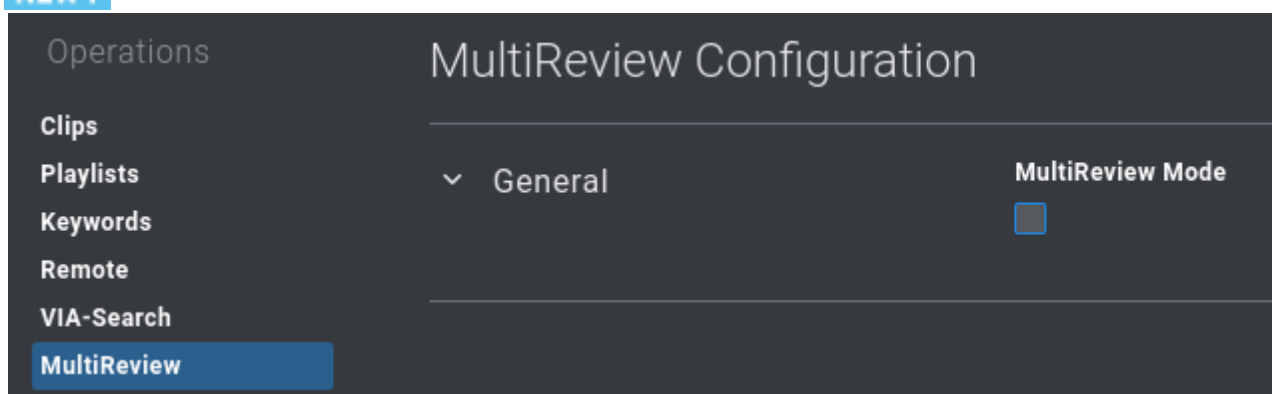
説明	Searchサービスを有効/無効にし、それらが展開される場所を指定します。
可能な値	<ul style="list-style-type: none"> ●Disabled: VIA Searchサービスが無効になり、ユーザーは検索機能を使用できなくなります。 ●Local: VIA SearchサービスはLSM-VIAワークステーションにローカルに展開され、LSM-VIAの起動時に開始されます。 ●Network: VIA Searchサービスは、次のフィールドで識別されるネットワークの単一のLSM-VIAワークステーション上に展開されます。
デフォルト値	Local

IP Address of VIA Search Services

NEW ! 有効	この設定は、Deployment Mode パラメータの Network オプションが選択されている場合にのみ表示されます。
説明	この設定は、VIA SearchサービスがインストールされているネットワークLSM-VIAワークステーションのIPアドレスを指定します。

MultiReview

NEW !



MultiReview Mode

説明	有効なライセンスがインストールされている場合、LSM-VIA メイン メニューから MultiReview オプションを使用できるようにします。 MultiReview モードを使用すると、ユーザーはネットワークのすべての XT-VIA サーバー レコーダー チャンネルからのフィードを表示および参照し、選択したチャンネルでアクションを実行できます。
可能な値	<p>●No (クリア): LSM-VIA から MultiReview モードを利用できないことを意味します。</p> <p>●Yes (選択): LSM-VIA から MultiReview モードが利用できることを意味します。</p>
デフォルト値	No (クリア)

7. LSM-VIAを開始する

LSM-VIAの開始方法

LSM-VIAの開始は、LSM-VIAワークステーション(LSM-Viewer)とLSM-VIA リモートパネルの両方で、アプリケーションを起動することです。

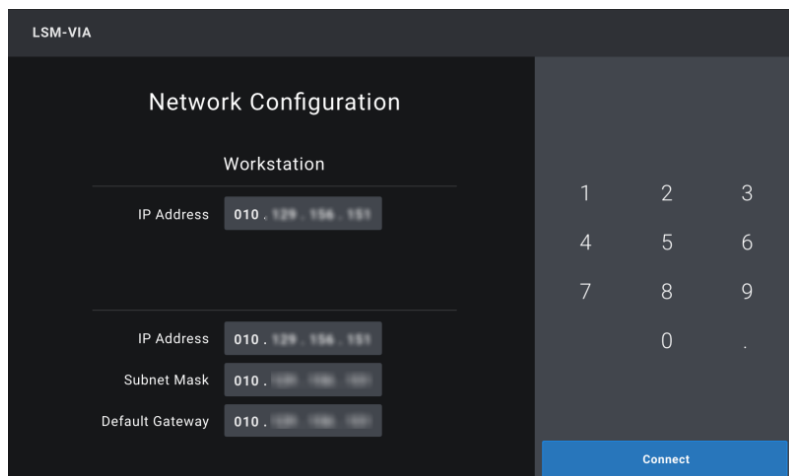
1.LSM-VIAワークステーションのデスクトップ上のLSM-VIAアイコンをダブルクリックします。



2.LSM-VIA リモートパネルの背面、電源装置の上にある電源スイッチを使用して、LSM-VIA リモートパネルの電源を入れます。

3.LSM-VIA リモートパネルのタッチスクリーン上、WorkstationのIP Addressフィールド内に、LSM-VIAワークステーションのIPアドレスを入力します。

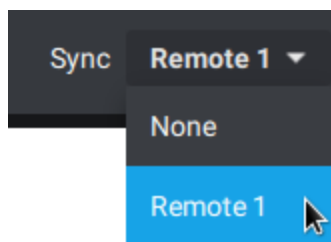
オクテットに3桁の数字を入力すると、フォーカスは次のオクテットに直接移動します。
それ以外の場合は、編集するオクテットをタップできます。



4.同じ方法で、Remote Panel (LSM-VIAリモコン)のIPアドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイを入力します。

5.LSM-VIAリモコンのタッチスクリーン上で、 をタップします。

6.(オプション) LSM-VIA Viewerでは、LSM-VIA ViewerとLSM-VIAリモコン間でページとバンクナビゲーションが同期するように、**Sync**フィールド内でLSM-VIAリモコンを選択できます。



これで、LSM-VIAでの作業を開始する準備が整いました。

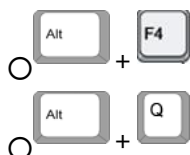


IP アドレスはメモリに保存されるため、後続の接続のために手順 3 と 4 をスキップできます。

LSM-VIAを閉じる方法

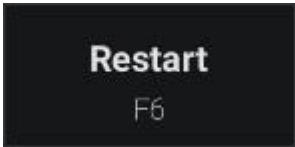

これにより、LSM-VIAワークステーションおよびLSM-VIA リモートパネル上のLSM-VIAを閉じます。

- 1.LSM-VIA リモートパネルの背面、電源装置の上にある電源スイッチを使用して、LSM-VIA リモートパネルの電源を切ります。
- 2.LSM-VIA Viewerから、以下のキーボードショートカットシーケンスのいずれかを使用して、LSM-VIAアプリケーションを閉じます。

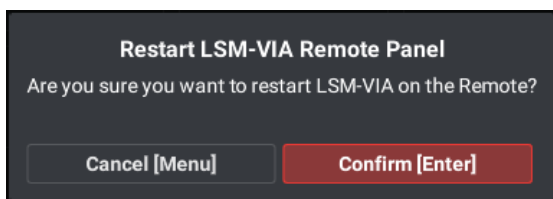



LSM-VIA リモートパネル上でLSM-VIAを終了する方法

これにより、LSM-VIA リモートパネル上のLSM-VIAアプリケーションを閉じます。

1. **SHIFT** + **MENU** を押し、メインメニューにアクセスします。
2.  をタップ、または  を押します。

タッチスクリーン上に、以下のメッセージが表示されます；



3.  をタップまたは **ENTER** を押して、LSM-VIA リモートパネルのLSM-VIAを閉じることを確認します。

Network Configuration画面が開き、ワークステーションでLSM-VIA Viewerがまだ開いている場合は、LSM-VIA リモートパネルでLSM-VIAを直接再起動できます。



- LSM-VIA リモートパネルをオフにしても、Viewerは引き続きEVSサーバーと通信できます。
リモートパネルのスイッチを入れて、いつでも再接続できます。
- LSM-VIA Viewerを閉じると、LSM-VIA リモートパネルのLSM-VIAアプリケーションがアプリケーションの終了を要求します。

8. LSM-VIA リモートパネルのリカバリプロセス

序文

LSM-VIA リモートパネルが、クラッシュ、またはコマンドに反応しなくなった場合は、LSM-VIA リモートパネルのリカバリプロセスを実行する必要があります。

リカバリは、LSM-VIA リモートパネルのミニマリストバージョンを再インストールし、LSM-VIAワークステーションからLSM-VIA リモートパネル上のLSM-VIAコンポーネントを更新する方法で構成されます。



リカバリを開始する前に、LSM-VIA ワークステーション上の LSM-VIA アプリケーションを閉じることをお勧めします。

クラッシュから回復する方法

- 1.LSM-VIA リモートパネルの電源を切ります。
- 2.LSM-VIA リモートパネルの下部にあるリカバリボタンを押し、保持します。
- 3.LSM-VIA リモートパネル上に以下のメッセージが表示されるまで、LSM-VIA リモートパネルの電源を入れ、リカバリボタンを5秒以上押したまま保持します：

Installation in progress
this might take some time, please wait.
Do not turn off the remote.

リカバリボタンを放すと、インストールの進行状況がメッセージに表示されます。

約1分かかります。

アプリケーションがリセットされると、LSM-VIA リモートパネルを再起動するように要求されます。

- 4.要求されたら、LSM-VIA リモートパネルの電源オフ>オンします。
通常のブートシーケンスが実行されます(約20秒)。
プロセスの最後に、LSM-VIA リモートパネルは、Network Configurationスクリーンを表示します。
- 5.ワークステーション上で、LSM-VIAアプリケーションを開始します。
- 6.LSM-VIA リモートパネル上で、タッチスクリーンでNetwork Configurationスクリーン内のフィールドに入力し、

Connect

をタップします。

7.LSM-VIAアプリケーションは、LSM-VIA リモートパネルとワークステーションの間のバージョンが異なることを検出し、標準のアップグレードプロセスのように、LSM-VIA リモートパネル上のバージョンをアップグレードするようプロンプトを出します。

9. LSM-VIA リモートパネルオペレーティングシステムのアップグレード（工場出荷時インストール）

EVSからの指示があると、LSM-VIA リモートパネルにインストールされているオペレーティングシステムを手動で更新する必要があります。

最大 4 GBメモリのFAT32でフォーマットされた USBスティックを使用します。

1.USBスティック（解凍されたコンテンツ）のルート位置にあるオペレーティングシステムアーカイブ（*.tar.gz）のファクトリインストールバージョンのコンテンツを抽出します。

Name	Date modified	Type	Size
res	25/09/2020 16:21	File folder	
install.scr	25/09/2020 16:21	Screen saver	4 KB
mbr	25/09/2020 16:21	File	1 KB
recovery.ext2	25/09/2020 16:21	EXT2 File	614 400 KB
update.scr	25/09/2020 16:21	Screen saver	1 KB

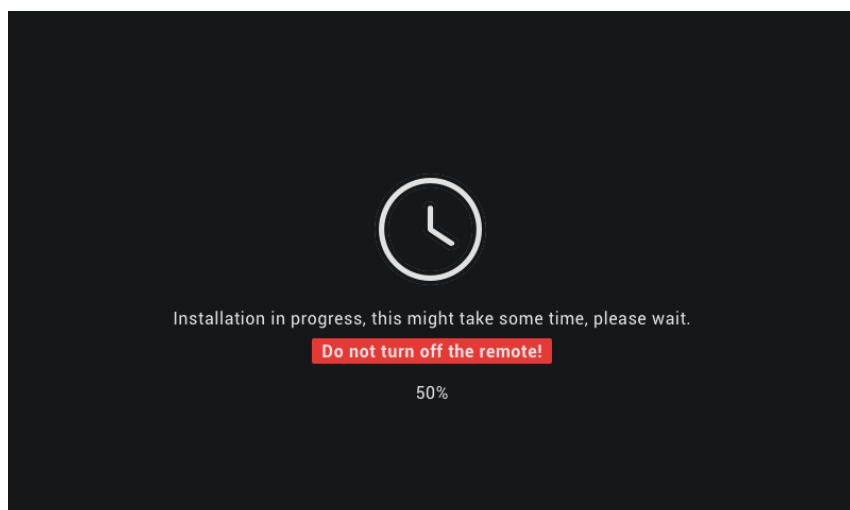
2.LSM-VIA リモートパネルの電源を落とします。

3.USBスティックを、LSM-VIA リモートパネルのUSBポートの1つに接続します。

4.LSM-VIA リモートパネルの電源を入れます。

USBスティック上にあるオペレーティングシステムが自動的にインストールされます。

タッチスクリーン上に、次のメッセージが表示されます：



5.インストールが完了したら、LSM-VIA リモートパネルの電源を落とします。

6.USBスティックを取り外します。

7.LSM-VIA リモートパネルの電源を入れます。

LSM-VIA Welcome Screenが表示されます。

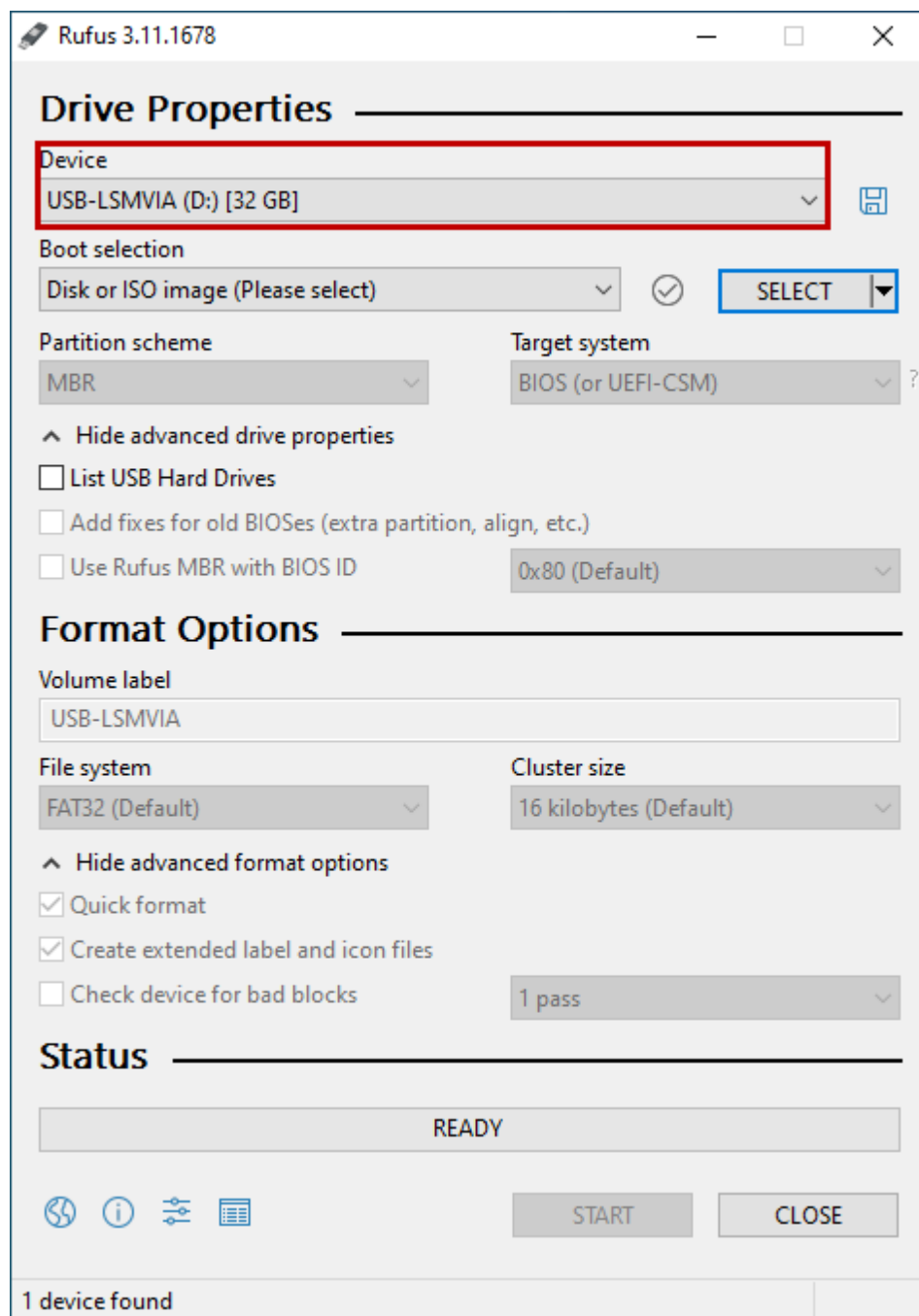


この LSM-VIA リモートパネルオペレーティングシステムの更新により、LSM-VIA リモートパネルのリカバリパーティションも同時に更新されます。

10. XClient-VIAの展開

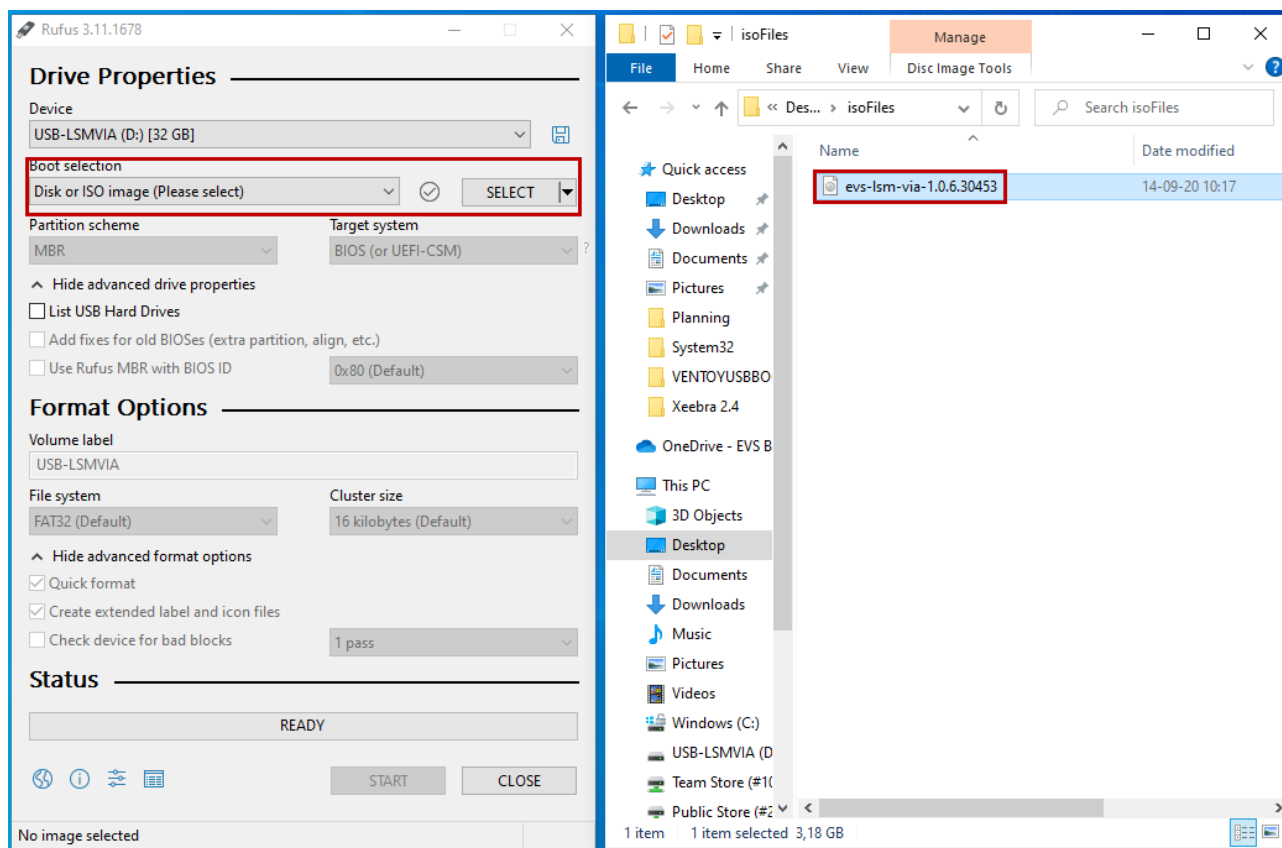
USB キーの準備

1. <https://rufus.ie/>で、Rufusをダウンロードします。
2. RuFusを起動し、USBデバイスを選択します。

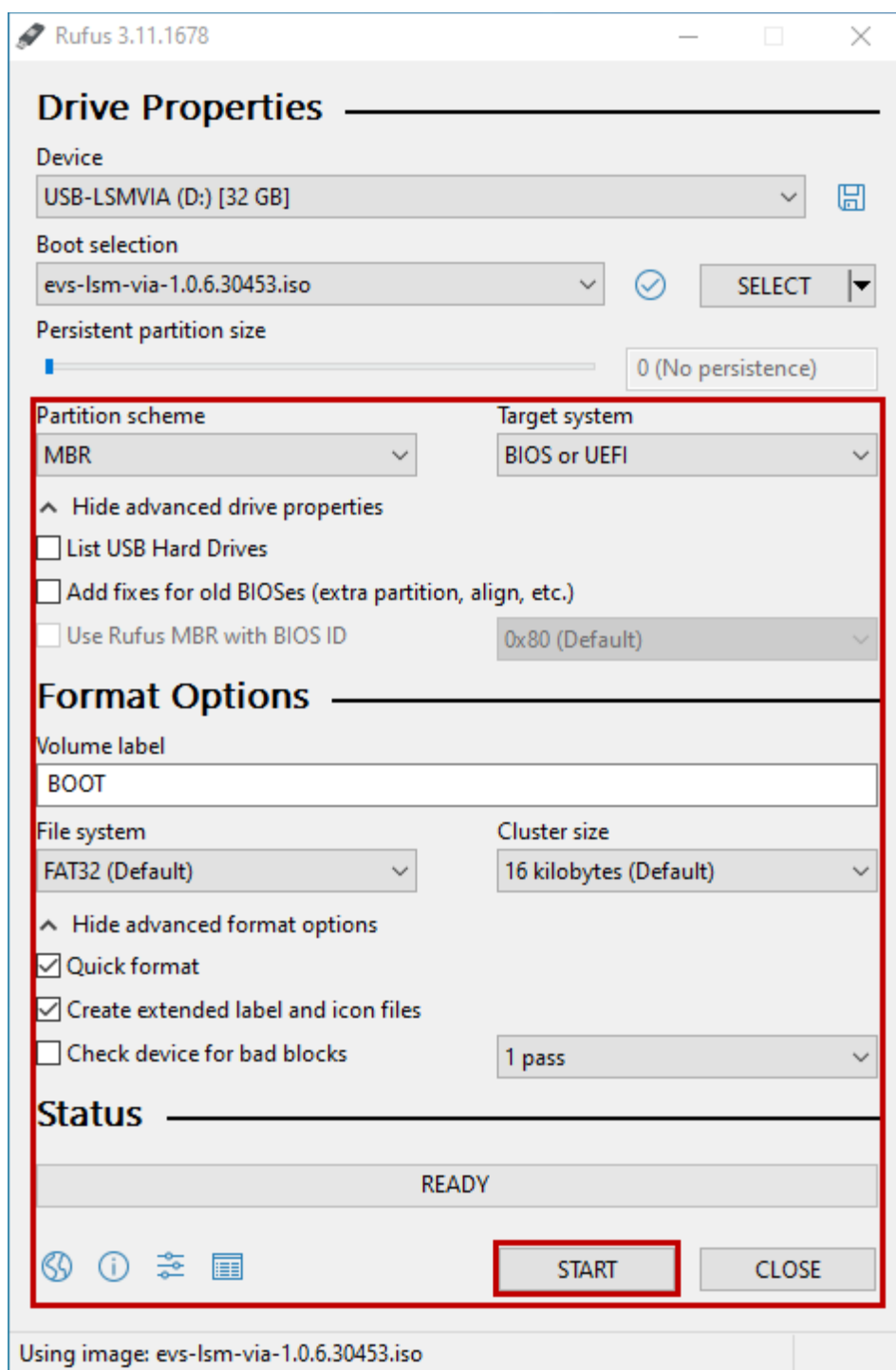


3.LSM-VIA iso イメージを選択します。

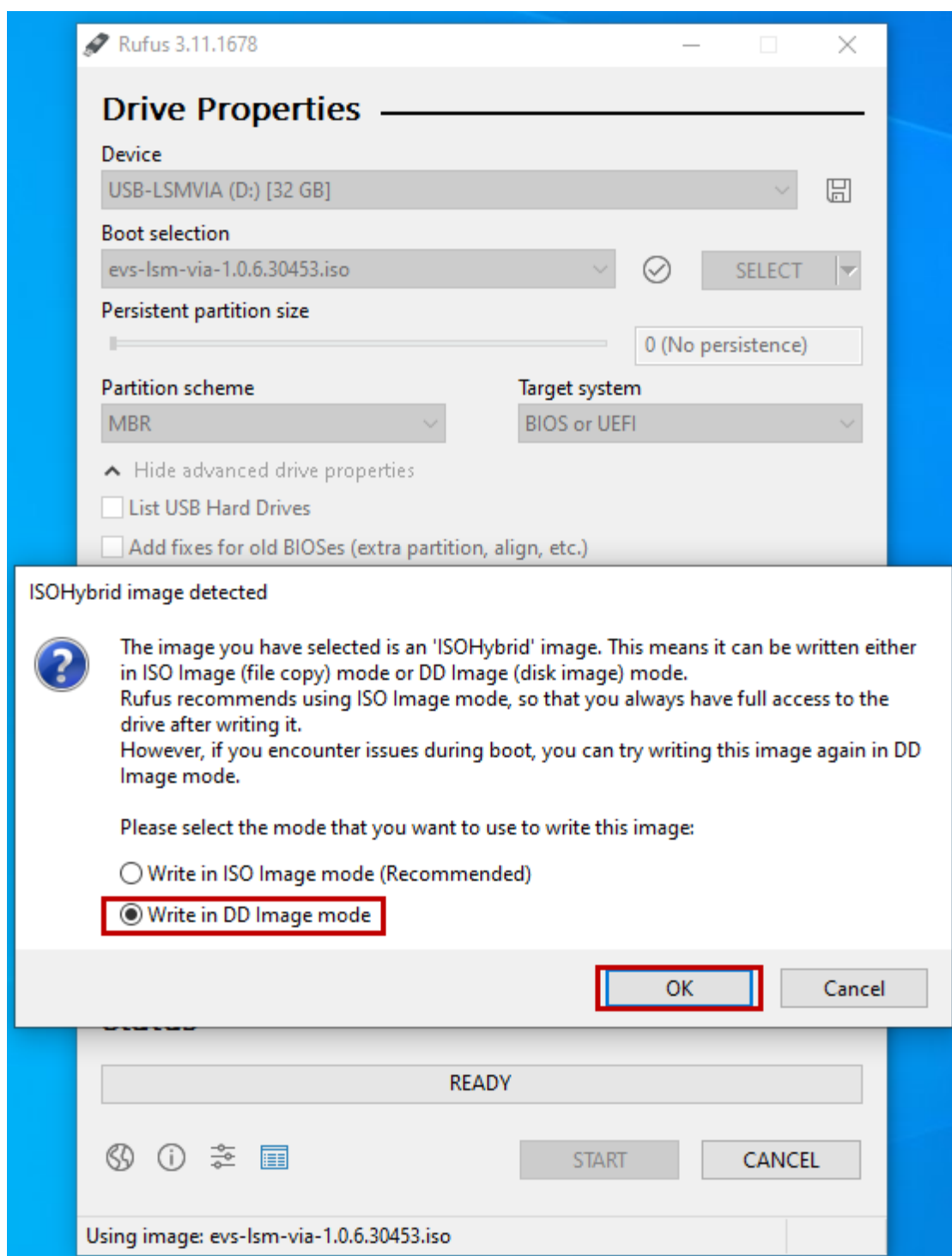
EVISサポートチームに連絡して、正しいイメージバージョンを確認または入手してください。



4.全てのパラメータを確認し、**Start**をクリックします。



5. Write in DD image mode オプションを選択し、OK をクリックします。



6. USBスティックを使用する準備が整うまで、数分待ちます。

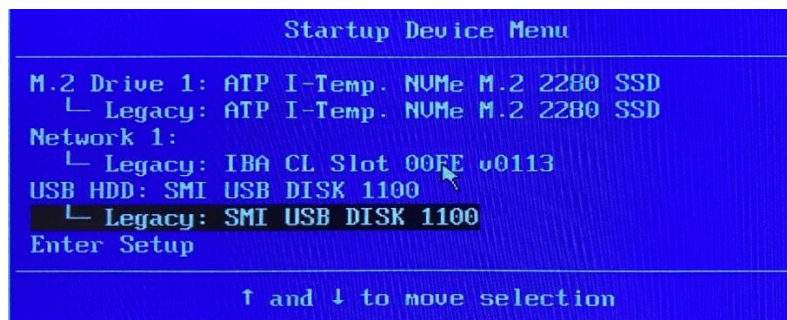
クライアントのインストール

1.コンピュータにUSBキーを挿します。

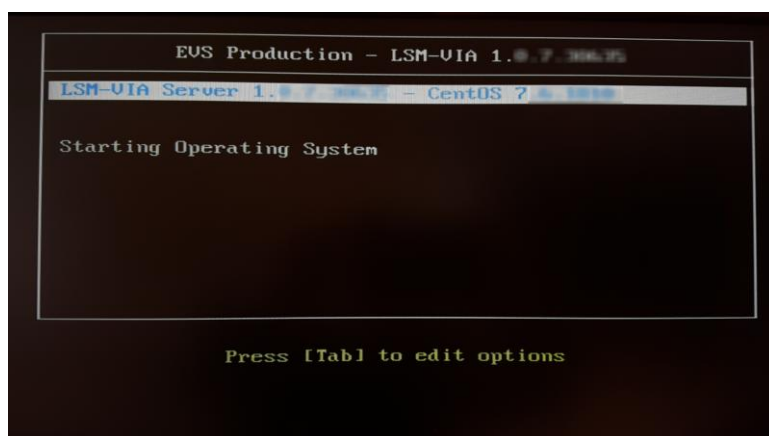
2.USBキーで起動します：

a.起動中に、F12 キーを押します。

b.Startup Deviceメニューから、Rufusで作成したUSBキーを選択します。



c.次の画面で、LSM-VIA Serverを選択します。



インストールプロセスが開始されます:

```

#####  ##  ##  #####
#####  ##  ##  #####
#####  ##  ##  #####
#####  ####  #####

[EUS] Starting automated CentOS installation process...
[EUS] Retrieving informations from command line
[EUS] - Importing: EUS_PRODUCT_ACCRONYM=lsmvia
[EUS] - Importing: EUS_PRODUCT_NAME=evs-lsm-via-server
[EUS] - Importing: EUS_PRODUCT_VERSION=1.0.6.30453
[EUS] - Importing: EUS_CENTOS=7.6.1810
[EUS] - Importing: EUS_NVIDIA_VERSION=430.26
[EUS] - Importing: EUS_NO_GROW=1
[EUS] Retrieving informations from command line
[EUS] - Non Virtualized mode.
[EUS] Identifying original usb disk
[EUS] - Identified usb disk: sda
[EUS] Install megacli
'/run/install/repo/megacli64-8.04.53-x86_64.bin' -> '/tmp/MegaCli'
'/run/install/repo/sysfs-2.0.2-x86_64.so' -> '/tmp/libsysfs.so.2.0.2'
[EUS] Looking after evs-devices rpm
[EUS] evs-devices not found, proceeding with inline install
[EUS] Detecting disks (inline)
[EUS] Looking for raid_info
[EUS] - No raid_info found, skipping...
[EUS] Clearing disks

[EUS] - Raid controller not found, skipping...
[EUS] Identifying the disks
[EUS] Identified disks:
[EUS] System disk          nvme0n1
[EUS] Second disk (vg_01)  not identified
[EUS] Rescue disk          not identified
[EUS] Storage disk (raid)  not identified

[EUS] Generate the /tmp/filesystems.inc with USB_DISK:'sda' / RE
[EUS] - Option 'no grow' specified
[EUS] Found ansible tar /run/install/repo/install-evs-lsm-via-se
[EUS] Generate /tmp/network-interfaces.inc
[EUS] Autoconfiguring network interface eno1
[EUS] Generate /tmp/oscapp_profile.inc
[EUS] Identified disks:
[EUS] - System disk          nvme0n1
[EUS] - Second disk (vg_01)  not identified

```

3.最初のインストール手順の最後に、USBキーを XClientに接続したままにして、再起動します:

```

#####  ##  ##  #####
#####  ##  ##  #####
#####  ##  ##  #####
#####  ####  #####

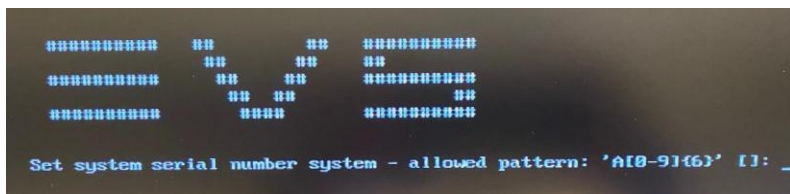
EUS] Installed with kickstart version 3.7.0
EUS] End of product installation process...
EUS] Please wait while we restart the system
EUS] Installed through the inline ansible method with /run/install/repo/inst

Use of this product is subject to the license agreement found at /usr/

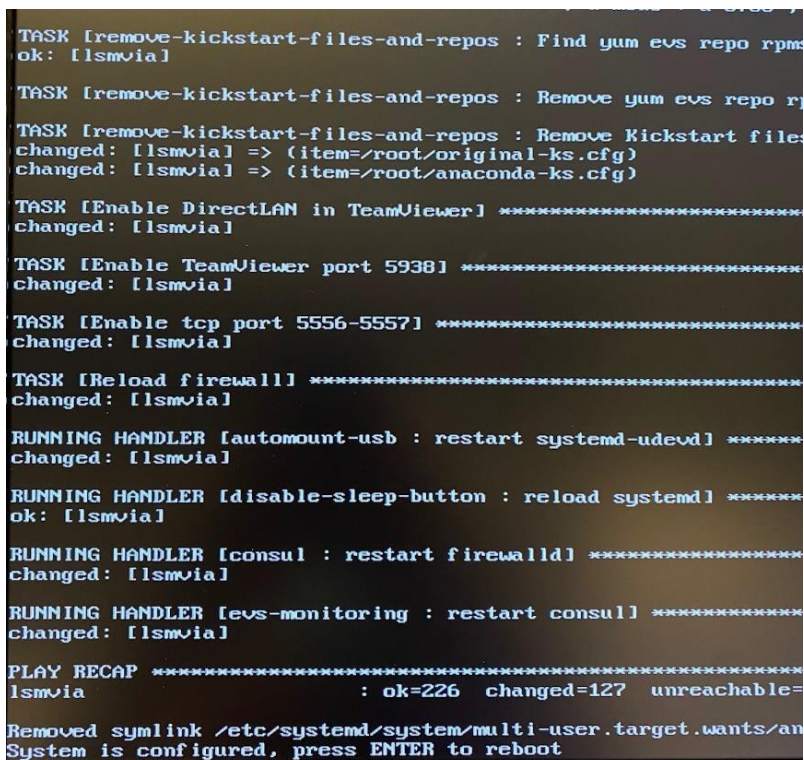
Installation complete. Press return to quit

```

4.再起動後、(コンピュータの前面にある)シリアル番号を入力するように求められます。



5.このプロセスの最後に、コンピュータを再起動して インストールを完了します。



もし、質問等あれば、フォトロン宛に、お問い合わせ下さい。

LSM-VIA
INSTALLATION AND CONFIGURATION MANUAL
Version 1.7 – July 2023

発行年月 2023年 9月 発行

株式会社フオトロン
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-105
神保町三井ビルディング21階

OC2022.PHOTRON LIMITED、All rights reserved. Printed in Japan.



EVS Broadcast Equipment is continuously adapting and improving its products in accordance with the ever changing requirements of the Broadcast Industry. The data contained herein is therefore subject to change without prior notice. Companies and product names are trademarks or registered trademarks of their respective companies.

